WinBook Quattro

Quattro 90／120
（J4P90CX）
（J4P120CX）

Windows®95 モデル
ユーザーズガイド

SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

神奈川県横浜市中区太田町4-55
横浜馬車道ビル

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

WinBook Quattro 90/120
ノートブック コンピュータ
ユーザーズガイド

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Quattroをお買い上げいただきまことにありがとうございました。ソーテックWinBook Quattroは、高精細の800×600ドットワイド画面に加え、CD-ROMドライブやステレオスピーカ、マイクなどのマルチメディア機能を標準で搭載するなど、Windowsを活用するための数多くの機能をコンパクトなA4サイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を6つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Quattroを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

株式会社ソーテック

本製品を正しくお使いいただくために

ご使用の前に取り扱い上の注意をよくお読みになり正しくお使いください。

⚠ 警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。修理は販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。火災・感電の原因になります。

お願い

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。

●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品にインストールされているWindows®95、MS Works、および各種ユーティリティソフトが収録されているCD-ROMやフロッピーディスクは大切に保存してください。
●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをおとりください。
●本体底面のファームウェアカバーは絶対に開けないでください。修理は販売店にご相談ください。

⚠ 注意

● ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

● 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。漏電・火災の原因となります。

● 落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。故障による火災・感電の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～30℃)/使用周囲湿度(20～80%)を超える範囲では使用・保存しないでください。

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(+と-の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリから液が漏れたり異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。もし、電池から漏れた液が眼に入ったときは、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

お手入れについて

●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

Contents

第1章 スタートアップガイド

第2章 キーボード操作に馴れよう

第3章 マルチメディアを楽しもう

第4章 システムを拡張する

第5章 システムの設定を変える

第6章 トラブルが起きたら・・・

Appendix

ユーザーズガイドの読みかた

各ページの構成は、次のようになっています。

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

最初に使うときは・・・

ACアダプタの接続と充電

充電の方法

⚠注意

大見出し

この項目の概要

中見出し

小見出し

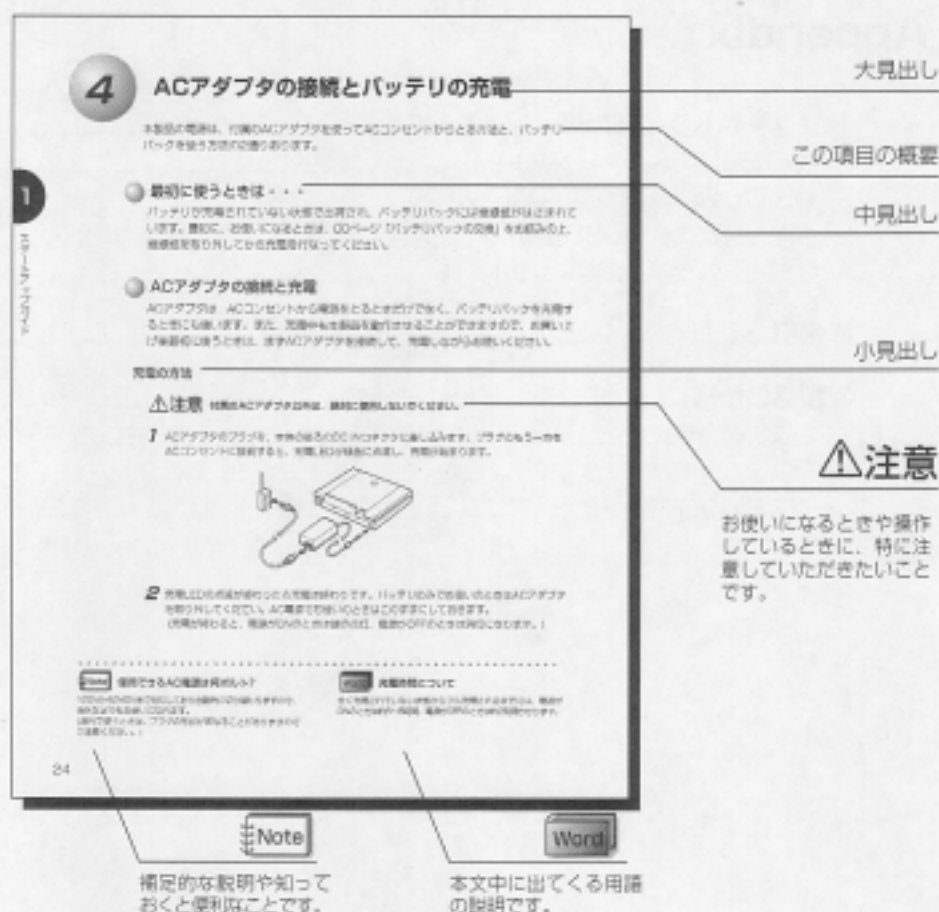
⚠注意

お使いになるときや操作しているときに、特に注意していただきたいことです。

Note

補足的な説明や知っておくと便利なことです。

Word

本文中に出てくる用語の説明です。

インデックスについて

チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく6つのセクションに分けられています。

付属品の確認から実際に電源を入れてWindows®95を立ちあげるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。

スタートアップガイド 1

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードに馴れていない方は必ずお読みください。

キーボード操作に馴れよう 2

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品のサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたについて説明しています。

マルチメディアを楽しもう 3

PCカードの使いかた、メモリやハードディスクを交換する方法、および内蔵FAXモデムの取り付け方法と外部周辺機器の接続方法について説明しています。

システムを拡張する 4

システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法について説明しています。

システムの設定を変える 5

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

トラブルが起きたら･･･ 6

再インストールの方法や、本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

Appendix

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作に馴れよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
マルチメディア機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードや内蔵FAXモデムを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 マルチメディアを楽しもう」「第4章 システムを拡張する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第6章 トラブルが起きたら…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、102ページの「第6章 トラブルが起きたら…」のページをお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。

・本製品を購入された販売店、代理店の名称
・本製品のシリアル番号（コンピュータ底面のラベルに印刷してあります）
・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号　045-661-7358
FAX番号　045-662-0656

毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後12時・午後1時～午後4時
（祝祭日を除きます。）

書面の郵送、または物品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包（梱包箱、パッキン）にてご返送ください。

〒231　神奈川県横浜市中区太田町4-55横浜馬車道ビル
株式会社ソーテック　テクニカルサポートセンタ

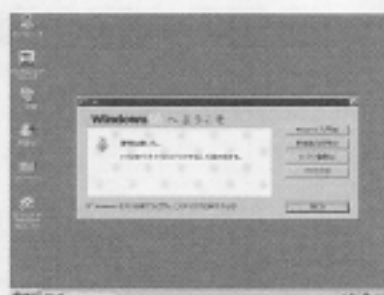
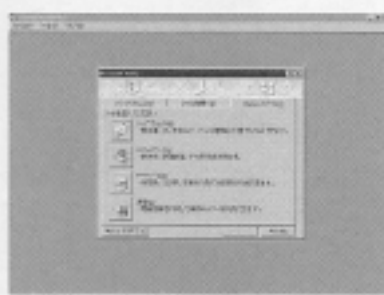
⚠注意 ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。

スタートアップガイド

付属品の確認と、実際に電源を入れてWindows®95を立ち上げるまでを、順を追って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使われるときには必ずお読みください。

WinBook Quattroの機能を知る

WinBook Quattroの主な機能や特長を紹介します。

●Windows®95をプレインストール

●ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールで構成されている統合ソフトウェア
MS Worksをプレインストール

●コンピュータウイルス対策システム
ウイルスバスター95 Liteをプレインストール

梱包の内容を確認する

ソーテックWinBook Quattroには、本体の他に次のような付属品とソフトウエアが含まれています。パッケージを開けたら、不足品がないかどうか確認してください。

ハードウエアと付属品

●FDDケーブル 1本

●Windows®95 パッケージ

- Windows95マニュアル
- クリップボード
- ディスクラベル
- ユーザー登録カード
- CD-ROM

●MS Works CD-ROM

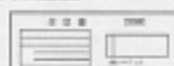
ユーザーズガイド

●起動ディスク 1枚
ラベル

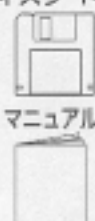
●ドライバディスク 1枚

●WinBook Quattro
ユーザーズ
ガイド(本書です。)

●ユーザ登録カード

●保証書

●テックサポート
FAXシート

●ウイルスバスター95
ディスク 1枚

マニュアル

インストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、本体に装着されているハードディスクにあらかじめインストールされています。

●Microsoft Windows®95

米国マイクロソフト社が開発したコンピュータのオペレーティングシステムです。
同時に複数のアプリケーションを実行できる「プリエンティブマルチタスク環境」を実現するとともに、グラフィックを使ったインターフェース(GUI)を持ち、マウスなどを使って簡単にコンピュータを操作することができます。
また、ハードウェアの追加などが簡単にできる「プラグ アンド プレイ」や、アプリケーション間の連携プレイを実現する「OLE2」、他のコンピュータとデータや機器を共有したり電子メールを送受信できる「ネットワーク」機能、ビデオやサウンドを再生できる「マルチメディア」機能など、数々の先進機能が搭載されています。
Windows®95の詳しい使いかたについては、付属のWindows®95のマニュアルをお読みください。

●Microsoft Works for Windows®95

ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールが入っている統合ソフトウェアです。文書の作成をはじめとして、データの集計・計算・グラフ作成から、データの管理、パソコン通信まで、ほとんどの作業がこのソフトウェア1つで行なうことができます。詳しい使いかたについては、付属の「MS Worksユーザーズガイド」をお読みください。

●ウイルスバスター95 Lite

コンピュータウイルス対策システムです。フロッピーディスクをドライブにセットしたときや、ネットワークからデータをダウンロードするときにウイルスが侵入しないかどうかを自動的にチェックする「ウイルス監視機能」、ハードディスクなどの指定のドライブにウイルスが侵入していないかどうかを高速チェックする「ウイルス検索プログラム」などにより、ウイルス感染の危機からコンピュータを守ります。

各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め

カバーを開けるときは、手前のノブを押して、見やすい角度まで開きます。ACアダプタが接続されていなければ180度まで開けることができます。

カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。ONのままカバーを閉じると、サスペンドレジューム状態に入ります。

前面/上面

❶LCD画面

文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(➔ 94ページ)

❷LCD画面の輝度調整ノブ

画面の明るさを調整します。(バッテリ動作中は輝度が自動的に最低に設定されます。)

❸電源スイッチ

サスペンド･レジューム状態にさせたり、サスペンド･レジューム状態から動作状態に戻すことができます。また、パワーマネージメントメニューの設定により、電源をON/OFFすることもできます。(➔ 98ページ)

❹キーボード

キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。

❺グライドポイント

指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(➔ 30ページ)

❻ドライブユニット装着スロット

CD-ROMドライブユニット、または、フロッピーディスクユニットを装着します。(➔ 41ページ)

⚠注意 アクセスランプが点灯しているときにディスクを取り出さないでください。データが破壊するおそれがあります。

❼ステータスLED

動作状態を表示します。(➔ 23ページ)

❽電源LED

電源の状態を表示します。(➔ 25ページ)

❾充電LED

充電の状態を表示します。(➔25ページ)

❿リセットスイッチ

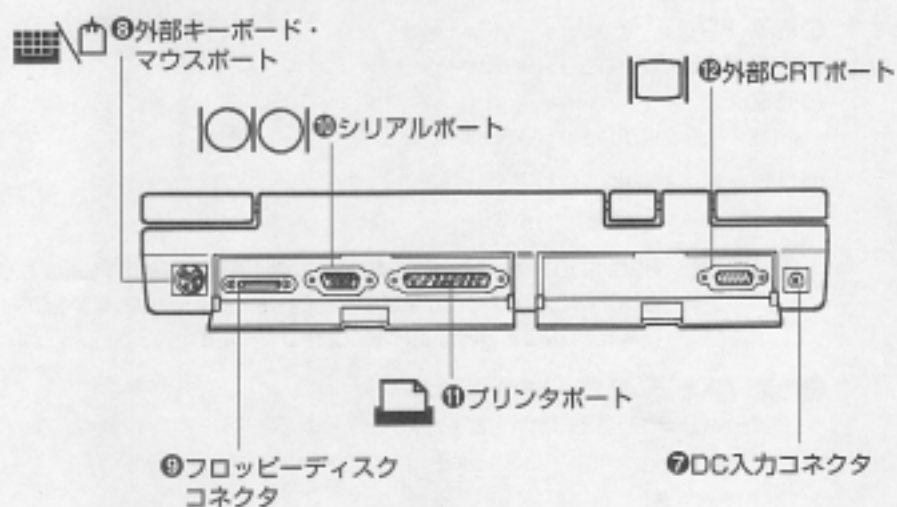
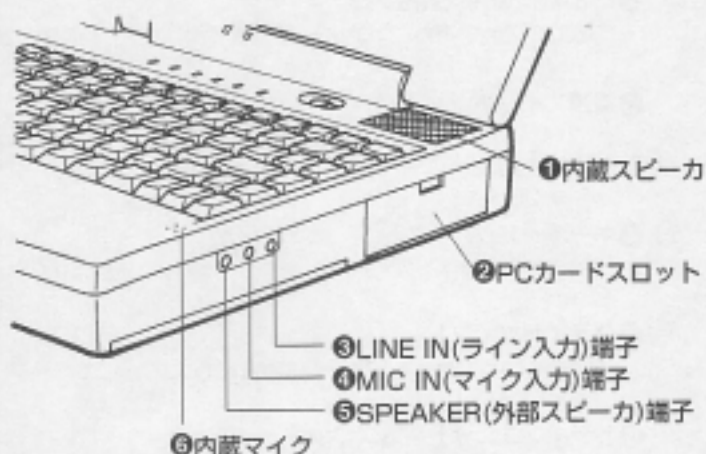
コンピュータを再起動させます。

⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

⓫内蔵FAXモデムスロットジャックカバー

内蔵FAXモデム装着時に使用します。(➔ 73ページ)

右側面・後面

ノブを下げながら、ふたを開けてください。

❶内蔵スピーカ

35mm径のステレオスピーカです。(➔ 58ページ)

❷PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(➔ 68ページ)

❸LINE IN(ライン入力)端子

CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 59ページ)

❹MIC IN(マイク入力)端子

マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 59ページ)

❺SPEAKER(外部スピーカ)端子

外部スピーカのケーブルを接続します。音声はステレオで出力されます。(➔ 59ページ)

⚠注意 **ヘッドホンやイヤホンは接続しないでください。突然大きな音が鳴り聴力障害を起こすおそれがあります。**

❻内蔵マイク

音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 58ページ)

❼DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(➔ 24ページ)

❽外部キーボード・マウスポート

PS/2キーボードやマウスを接続することができます。また、市販のキーボード・マウスアダプタを使用すればPS/2マウスを接続することもできます。(➔ 82ページ)

❾フロッピーディスクコネクタ

フロッピーディスクユニットを接続することができます。

❿シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM2」~「COM4」に変えることができます。(➔ 91ページ)

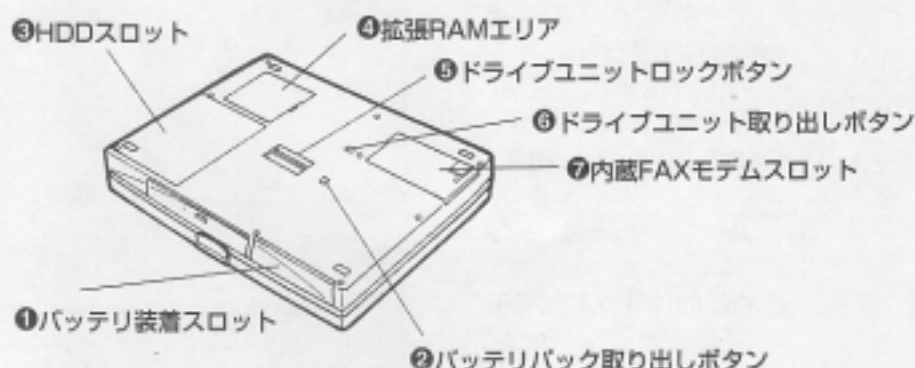
⓫プリンタポート

プリンタを接続します。パラレルポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで他の設定に変更できます。(➔ 91ページ)

⓬外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(➔ 83ページ)

底面

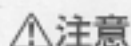
❶バッテリ装着スロット

バッテリパックを装着します。

❷バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。(→ 26ページ)

⚠注意 ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリパックを取り出さないでください。

❸HDDスロット

HDDカートリッジを収納します。(→ 79ページ)

⚠注意 コンピュータが動作中はHDDカートリッジを取り出さないでください。

❹拡張RAMエリア

拡張RAMモジュールを装着します。(→ 77ページ)

❺ドライブユニットロックボタン

ドライブボタンを固定するためのボタンです。

❻ドライブユニット取り出しボタン

ドライブユニットを取り出すときにこのボタンを押します。

❼内蔵FAXモデムスロット

別売の内蔵FAXモデムを装着します。(→ 73ページ)

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。

マーク	名称	説明
	❶充電LED	充電の状態を表示します。(➔ 25ページ)
	❷電源LED	電源の状態を表示します。(➔ 25ページ)
	❸HDDアクセス	ハードディスク、またはCD-ROMドライブへのアクセス中に点灯します。
	❹FDDアクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
	❺CPU状態	CPUのスピードに応じて色が変化します。通常のスピードで動作しているときは緑色に点灯します。パワーセーブ機能が働いているか、CPUスピードが「LOW」に設定されているときはオレンジ色に点灯します。
1	❻NUMロック	NumLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でニューメリックキー(テンキー)が使えます。
A	❼CAPSロック	CpLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
	❽SCRLロック	ScrLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

⚠注意 HDDアクセスとFDDアクセスの点灯中に電源をOFFにしないでください。データが消えたり壊れる可能性があります。

ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

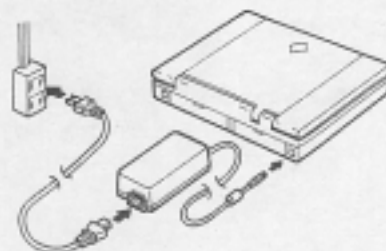
最初に使うときは・・・

バッテリが充電されていない状態で出荷され、バッテリパックには絶縁紙がはさまれています。最初に、お使いになるときは、26ページ「バッテリパックの交換」をお読みの上、絶縁紙を取り外してから充電を行なってください。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずACアダプタを接続して、充電しながらお使いください。

⚠注意 **付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。**

1 ACアダプタのプラグを、本体の後ろのDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、充電LEDが緑色に点滅し、充電が始まります。

2 充電LEDの点滅が終わったら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。
(充電が終わると、電源がONのときは緑の点灯、電源がOFFのときは消灯になります。)

Note 使用できるAC電源は何ボルト?

100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。
(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。)

Note 充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、電源がONのときは約6〜8時間、電源がOFFのときは約2時間かかります。

充電LEDの意味

消灯	ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。また、充電に適した温度条件を超えているなど、これ以上充電できない状態にあります。
緑色の点灯	ACアダプタを使用しているか、バッテリが100%~50%充電されている状態
黄色の点灯	バッテリが49%~25%充電されている状態
オレンジ色の点灯	バッテリが24%~10%充電されている状態
オレンジ色の点滅	バッテリが充電されていないか、9%~1%充電されている状態
緑色の点滅	現在充電中です。

電源LEDの意味

消灯	電源がOFFの状態です。
黄色の点灯	ACアダプタで動作しています。
黄色の点滅	ACアダプタで動作しており、サスペンド中です。
緑色の点灯	バッテリで動作しています。
緑色の点滅	バッテリで動作しており、サスペンド中です。

バッテリ残量が少なくなったときは･･･

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順で警告を発します。

バッテリ残量10%未満 ▶ CPU状態表示LEDがオレンジ色に変化
16秒おきにビープ音が鳴る
(CPUクロックスピードは自動的に遅くなります。)

バッテリ残量5%未満 ▶ 強制的にサスペンド状態に入る

警告が発せられたら･･･
●ACアダプタを接続して充電する
●充電済みのバッテリパックと交換する

⚠注意 **バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず26ページの説明にしたがって交換してください。**

⚠注意 **バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。CPU状態表示LEDがオレンジ色に変化し、ビープ音が鳴ったらすぐにデータをセーブしてください。**

Note バッテリを節約するには･･･

- 使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
- パワーマネージメント機能を活かす。特にグローバルスタンバイ機能を有効にしておくと効果的です。
- サスペンド･レジューム機能を有効にする。
- なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

Note リチウム電池について

本製品は、バッテリパックの他に内部にリチウム電池が装着されています。コンピュータ内部の時計やシステムコンフィグレーションなどの内容は、リチウム電池によって保持されていますので、バッテリパックを取り外してもこれらの内容が消えることはありません。

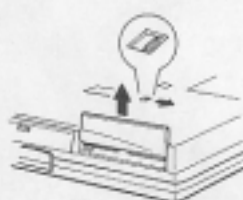
バッテリパックの交換

⚠注意　付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行なわないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります

2ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

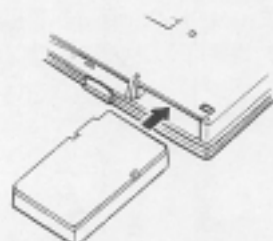
バッテリパックの交換は、電源がOFFのとき、もしくはサスペンド時かACアダプタで電源を供給しているときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯、もしくは黄色に点灯していることを確かめてください。緑色に点灯・点滅しているときは、データをディスクにセーブするか、ACアダプタを差し込んでからバッテリパックを交換してください。(サスペンドの状態でも交換することができます。)

1 本体を裏返してから、バッテリパックスロットカバーを図の方向にスライドさせて取り外します。

2 バッテリパック取り出しボタンを、図の矢印の方向にスライドさせながらバッテリパックを引き抜きます。

Word サスペンド・レジューム

アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、レジューム状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能は、パワーマネージメント(➔ 94ページ)で有効か無効かを設定できます。

3 本製品を初めて使うときはここで絶縁紙を取り除きます。

4 交換用のバッテリパックの端子面が奥に入るようにして、ゆっくりとスロットに差し込みます。ここで取り出しボタンがロックされているのを確認してください。

5 確実に装着されているのを確認したら、カバーを元通りにします。

バッテリ容量インジケータ

バッテリパックには、バッテリ容量を確認することができるインジケータが付いています。バッテリ容量を確認するには横にあるボタンを押します。点灯状態とバッテリ容量は次の通りです。

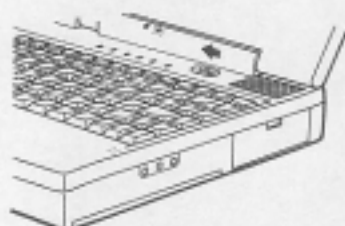
緑色の点灯	ACアダプタを使用しているか、バッテリが100%〜50%充電されている状態
黄色の点灯	バッテリが49%〜25%充電されている状態
オレンジ色の点灯	バッテリが24%〜10%充電されている状態
オレンジ色の点滅	バッテリが充電されていないか、9%〜1%充電されている状態

電源のON/OFFとリセット

電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。サスペンド・レジュームさせる場合は39ページをお読みの上、設定を変更してください。

電源のON/OFF

1 本体の前面にあるノブを押してカバーを開いてください。

2 キーボードの右上にある電源スイッチを左にスライドさせます。
電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを左にスライドさせます。

お買い上げ後初めて電源をONにしたときは、Windows®95セットアッププログラムが起動します。グライドポイントの使いかた(→30ページ)を覚えてから、セットアップを実行(→31ページ)してください。

⚠注意 **HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。**

Note 電源LEDの意味

消灯	:電源がOFFの状態です。
黄色の点灯	:ACアダプタで動作中
黄色の点滅	:ACアダプタで動作中(サスペンド状態)
緑色の点灯	:バッテリで動作中
緑色の点滅	:バッテリで動作中(サスペンド状態)

Note 充電LEDの意味

消灯	:ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。
緑色の点灯	:ACアダプタを使用しているか、100%～50%充電済み
黄色の点灯	:49%～25%充電済み
オレンジ色の点灯	:24%～10%充電済み
オレンジ色の点滅	:バッテリが充電されていないか、9%～1%充電されている状態
緑色の点滅	:現在充電中

コンピュータをリセットする

コンピュータを使っていると、突然何も反応しなくなったり動作が不安定になることがあります。このような状態を「ハングアップ」といい、多くの場合、ソフトウェア側に原因があります。
ハングアップした場合、状態によってはある動作を行なえば元に戻ることがあります。また、Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押すことにより、ハングアップの原因となっているプログラムだけを強制終了させることができます。
しかし、この操作を行なっても元に戻らないときや、全く反応しなくなったときはリセットをかけてコンピュータを再起動させなければなりません。
このとき、RAMに一時的に記憶されているアプリケーションで作りかけているデータも含めて、セーブされていないデータはすべて消えてしまいます。
このような事態になったときに備えて、日頃からこまめにデータをセーブしておくように心がけてください。

⚠注意 リセット以外のいかなる方法によっても対処できない場合を除き、むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させなければデータが消失したり、作業ファイルが残ったままになる場合があります。

ハングアップ時の対処方法

Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押す

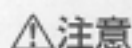
- ハングアップの原因となっているプログラムだけを強制終了できます。
- もう一度、Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押すとWindows®95を再起動します。

キーを押しても反応しない場合は、図の位置にある、リセットスイッチをボールペンの先などで押す。

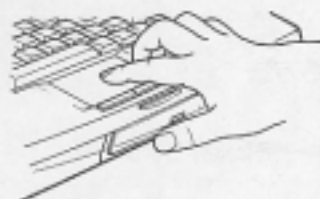
リセットするとWindows®95が再起動します。

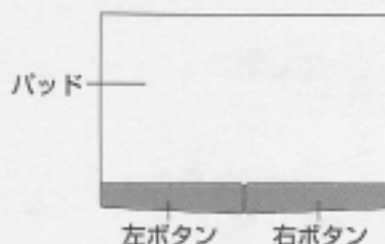
⚠注意 リセットすると、セーブされていないすべてのデータは消えてしまいます。

グライドポイントの使いかた

本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。Windows®95では、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

⚠注意
・ペン先などの先の尖ったもので触れたり表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
・2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。
・ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

画面のポインタを動かすには・・・

グライドポイントは、本製品のキーボードの手前中央にあります。グライドポイントのパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

クリックするには・・・

「クリック」とは、マウスのボタンを押すことで、素早く続けて2回押すことを「ダブルクリック」といいます。本製品の場合、マウスの左右のボタンに相当するボタンがグライドポイントの手前に2つあります。
ポインタをアイコンやボタン、メニューなどに移動してからこのボタンを押すと、クリックすることができます。

Windows®95をセットアップする

お買い上げ後初めて電源をONにしたときには、まだ、Windows®95が使える状態にはなっていません。お使いになるには、Windows®95をセットアップする必要があります。メモリーチェックが終わるとWindows®95セットアッププログラムの画面が表示されます。次の手順で、セットアップを行なってください。

⚠注意 **本製品に添付されているWindows®95のCD-ROMで再インストールを行なうと、「インターネットアプリケーション」が無くなります。再インストール時に「インターネットアプリケーション」が必要な方は、手順18でセットアップディスクを作成してください。この場合、フロッピーディスクが41枚必要です。**

1 セットアップの初期画面が表示されます。↵キーを押してください。

2 ユーザー情報を登録します。名前を入力して Tab キーを押し、会社名を入力します。入力が終わったら[次へ>]をクリックします。

3 ライセンスについての説明が表示されます。読み終わったら[次へ>]をクリックします。

4 使用許諾契約書が表示されます。読み終わったら[同意する]のところにポインタをのせてクリックし、[次へ>]をクリックします。[同意しない]を選ぶとセットアップできません。

5 「Windows®95パッケージ」に添付されている「Certificate of Authenticity」のバーコードの上に記述されている「Product ID」を入力します。入力が終わったら[次へ>]をクリックします。

6 コンピュータの環境設定を行ないます。[次へ>]をクリックします。

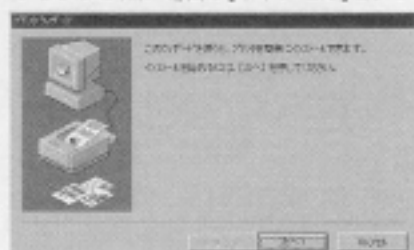
7 デバイスのインストールが始まります。設定には数秒かかります。
「コピー完了」と表示されたら[完了]をクリックします。

8 セットアップ完了のメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

9 再起動され、Windows®95の起動画面が表示されます。

10 ハードウェアとプラグアンドプレイ機器の設定が行なわれます。設定には数秒かかります。

11 各種の環境設定が順に行なわれます。
（コントロールパネル→[スタート]メニュープログラム→Windowsヘルプ→MS-DOSプログラム→Microsoft Exchange）

12 [プリンタ ウィザード]画面が表示されます。
・本製品に接続できるプリンタをお持ちの場合は[次へ>]をクリックし、ウィザードの指示にしたがってプリンタをインストールしてください。
・プリンタが無い場合は[キャンセル]をクリックします。

13 [日付と時刻のプロパティ]画面が表示されます。
[タイムゾーン]で、本製品を使用する場所を設定します。日本国内でお使いのときは変更する必要はありません。

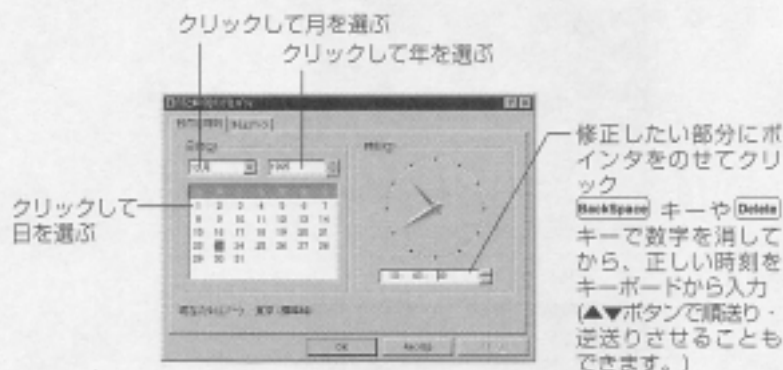
14 [日付と時刻]のタブをクリックします。

Note 急に画面が真っ暗になったら･･･

一定の時間キーを押さない状態が続くと、急に画面表示が消えることがあります。
これは、パワーセービング機能を設定しているときにパワーセービング状態に入ったことにより画面が消えたもので故障ではありません。何らかのキーを押すと元の表示に戻ります。

パワーセービング機能の設定については、96ページ「パワーセービング機能の設定」をお読みください。

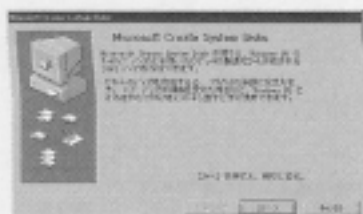
⚠注意　カレンダと時計が間違っていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違って記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。

15 日付と時刻を合わせます。

16 設定した日付と時刻に間違いないかどうか確認し、[更新]をクリックします。
何も変更していない場合は[更新]は表示されません。[閉じる]をクリックしてください。

17 [OK]をクリックします。

画面を見やすく調整しましょう

LCD画面の右側にあるノブを回して、液晶画面の輝度を見やすくなるように調整してください。

18 Microsoft Create System Disks作成画面が表示されます。
ここでは、Windows®95のセットアップディスクとシステムディスク(起動ディスク)を作成します。WinBook Quattroの場合、Windows®95のセットアップディスクとシステム ディスク(起動ディスク)は製品に付属されていますので作成する必要はありません。[キャンセル]をクリックします。

19 システムディスク作成を促すメッセージの表示をどうするのかを設定します。
システムディスク作成のメッセージを表示しないようにします。▼をクリックして、カウンタを0にしてください。

20 [完了]をクリックします。

21 コンピュータが再起動されます。
Windows®95の起動画面に続いてデスクトップ画面が表示されます。

22 「Windowsへようこそ」では、Windows®95の機能や使いかたなどを知ることができます。この画面を閉じるときは[閉じる]をクリックします。

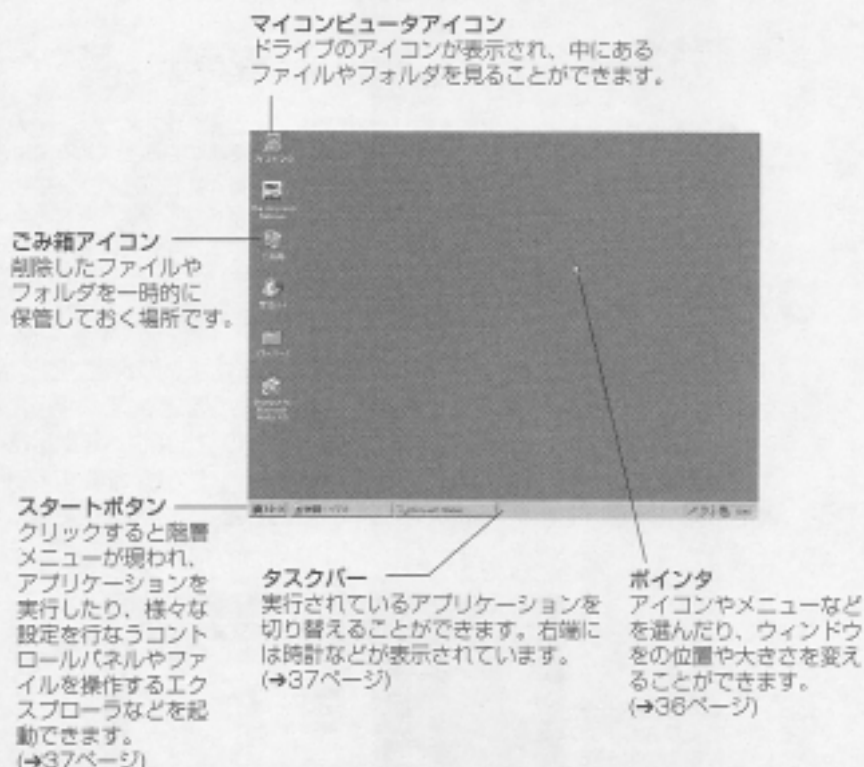
Note **Windows®95が起動しなくなったときは**

間違ったシステム設定を行なったり、前回Windows®95が異常終了したときなどは、正常に起動できなくなることがあります。このとき、「Starting Windows95」と表示されている間に [F8]キーを押すと表示される起動メニューでSafeモードを選択すると、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。詳しくはWindows®95のマニュアルをお読みください。

Windows®95の使いかた

Windows®95は、アイコンやボタンをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウからウィンドウへの文字や画像のコピーも簡単にできます。また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行することも可能で、例えば、CDプレーヤーで音楽を聴きながら、ワープロで文書を作成するというような使いかたもできます。

ここでは、アプリケーションの起動方法などWindows®95の基本的な操作方法について説明します。詳しい使い方については、付属のWindows®95のマニュアルや、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

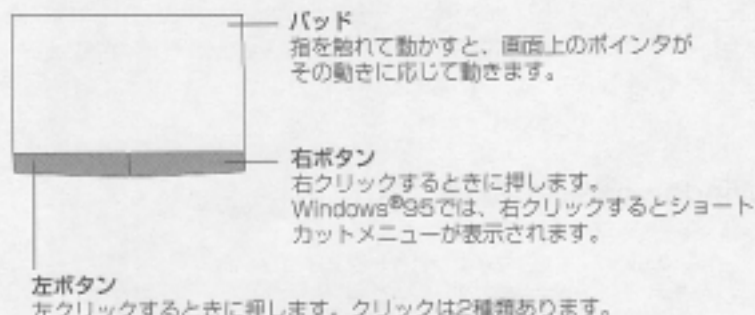
Windows®95の画面について

電源をONにするとWindows®95の起動画面が表示され、しばらくするとアイコンやタスクバーと呼ばれるものが表示されます。この画面を「デスクトップ」といいます。Windows®95では、このデスクトップ上でアプリケーションを実行し、いろいろな作業を行ないます。

クリックとダブルクリック

Windows®95の世界では、文字を入力する以外のほとんどすべての操作を、ポインタ(マウスカーソルともいいます)を使って行ない、アイコンやメニューの上にポインタをのせてクリックすることで処理を実行できます。
クリックとは、マウスのボタンを押すことで、本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。

パッド
指を触れて動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

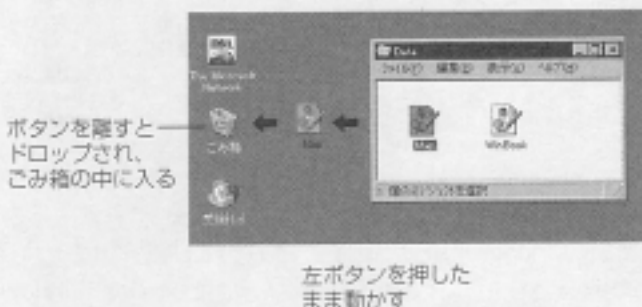
右ボタン
右クリックするときに押します。
Windows®95では、右クリックするとショートカットメニューが表示されます。

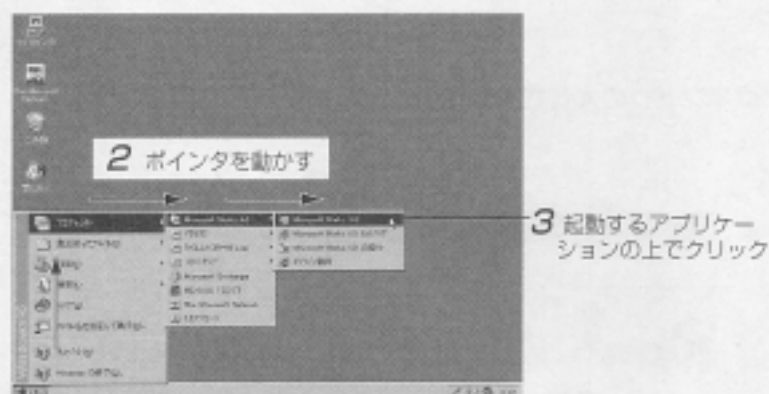
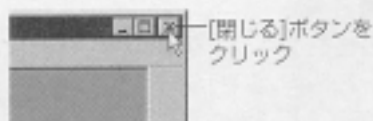
左ボタン
左クリックするときに押します。クリックは2種類あります。

●クリック・・・・・・ボタンを1回押すこと。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロなどで文字入力の位置を決めるのに使います。
●ダブルクリック・・・ボタンを素早く続けて2回押すこと。アイコンを選んでアプリケーションを起動するときや、なにかの処理を実行するときに使います。

ドラック & ドロップ

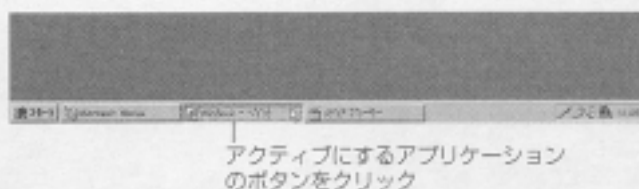
ドラックとは、アイコンなどをクリックして選んだたままの状態で別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、その場所に置くことです。ファイルやアプリケーションのアイコンなどを別のフォルダへ移動したり、ごみ箱へ入れて削除するときなどは、まず、アイコンの上にポインタのせ、左ボタンを押したままパッドの上で指を動かします。目的の場所まできたら、そこで左ボタンを離します。

ボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入る

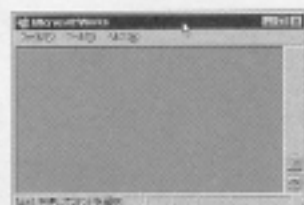
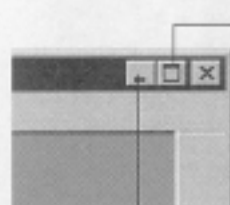
左ボタンを押したまま動かす

アプリケーションを起動する

アプリケーションを起動するには、スタートボタンをクリックすると現われるスタートメニューを使います。
マイコンピュータやエクスプローラから、アプリケーションのアイコンをダブルクリックして起動させる方法もあります。

アプリケーションを終了する

アプリケーションを切替える

実行されているアプリケーションはすべて、タスクバーにボタン表示されています。
ウィンドウの後ろに隠れているアプリケーションを一番前に表示させたり、最小化されているアプリケーションをウィンドウ表示して使えるようにするにはタスクバーを使います。

ウィンドウを操作する

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で動かしたい方向に指を動かします。

ウィンドウの大きさを変える

[最大化]ボタンをクリック
画面いっぱいに表示します。元の大きさに戻すときは ボタンをクリックします。

[最小化]ボタンをクリック
ウィンドウを閉じます。終了とは異なり、アプリケーションは実行されており、タスクバーのボタンをクリックすることで再び表示させることができます。

ウィンドウの大きさを自由に変える

ウィンドウの枠にポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で指を動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます。

(最大化の状態では、変えることはできません。)

Note 外部マウスを接続したときの設定

グライドポイントとPS/2マウスは同時に使用することができません。どちらを使用するかはシステムコンフィグレーションの【Components】-【GlidePoint】の設定で切り替えます。デフォルトはグライドポイントが有効ですので、PS/2マウスを使用するときは無効にしてください。

レジューム機能とスピーカ音量を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

サスペンド・レジューム機能の設定

本製品には、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる「サスペンド・レジューム機能」が搭載されています。

この機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロを一旦終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押したときに電源がOFFになるように設定されています。このとき、サスペンド・レジュームさせる場合は、次の手順で設定を変更してください。

1 Fn+Escを同時に押して、パワーマネジメントメニューを表示させます。

2 Altキーを押してから、Pキーを押します。

3 ▼キーで【Suspend Switch】を選びます。

4 キーを押して、電源スイッチの機能を設定します。
・左側のチェックマークが消えている状態・・・電源ON/OFFとして機能
・左側のチェックマークが付いている状態・・・レジュームON/OFFとして機能

5 Escキーを押して、Xキーを2回押します。

6 最後に↵キーを押します。

Word パワーマネージメント

電力の消費量を減らすための様々な機能です。例えば、一定の時間コンピュータのキーボード操作などを行なわなかった場合、自動的にシステムの電源をOFFにしたり、CPUの速度を遅くして電力の消費を抑えることができます。
(➔ 94ページ)

Note スタートメニューからサスペンドさせる

Windows®95の[スタート]ボタンをクリックすると表示されるメニューから[サスペンド]を選ぶと、電源スイッチをOFFにしなくても、すぐにサスペンド・レジュームさせることができます。

スピーカの音量の調節

本体には、ステレオスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量を調節するには、次のようにします。

スピーカの音量のみ調節するとき

タスクバーの をを左クリックする

▶

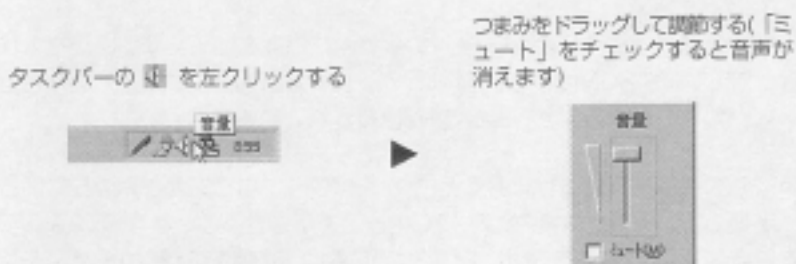
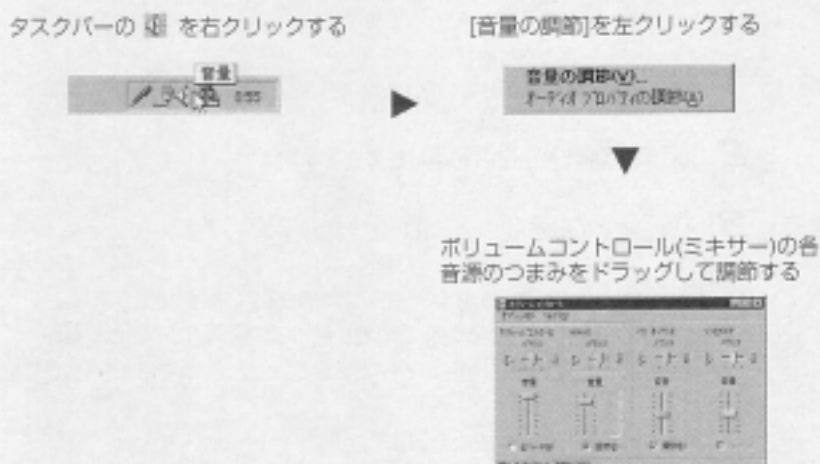
つまみをドラッグして調節する(「ミュート」をチェックすると音声が消えます)

左右のバランスや音源ごとに調節するとき

タスクバーの を右クリックする

▶

[音量の調節]を左クリックする

ボリュームコントロール(ミキサー)の各音源のつまみをドラッグして調節する

MS-DOSモードで音量を調節するとき

Fnキーと F2 F3 キーで調節する

Fn + F2 音量を上げる
Fn + F3 音量を下げる

使用するアプリケーションによっては、別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調節してください。

ドライブユニットを交換する

本製品には、フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブが付属しており、本体前面にはこれらを装着するスロットが搭載されています。
ここでは、これらの取り外しと取り付けの方法について説明します。

ドライブユニットとは・・・

ドライブユニットは、本体に脱着可能なドライブ装置のことです。本製品には、フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブの2つのユニットが用意されており、用途により使い分けることができます。なお、出荷時は、本体にCD-ROMドライブが装着されています。

フロッピーディスクからデータを読み出したり、アプリケーションをインストールするとき、フロッピーディスクにデータを保存するときは・・・ ▶ フロッピーディスクドライブユニット

CD-ROMからアプリケーションをインストールしたり、CD-ROMタイトルや音楽用CDを再生するときは・・・ ▶ CD-ROMドライブユニット

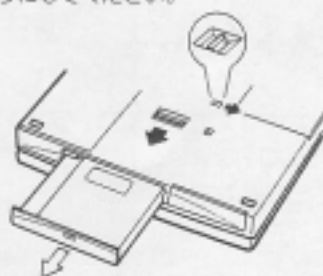
取り外すには

ここでは、CD-ROMドライブユニットを例に説明していますが、フロッピーディスクドライブユニットの場合も取り外し方法は同じです。

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で交換することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(➔ 98ページ)

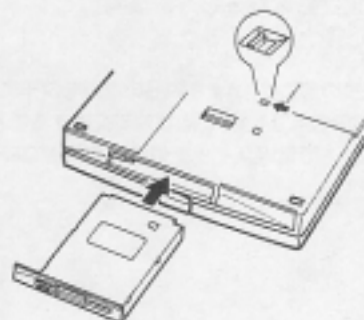
1 本体底面のドライブユニットロックボタンを矢印の方向にスライドさせます。

2 本体底面のドライブユニット取り出しボタンを矢印の方向にスライドさせます。

3 もう一方の手でドライブユニット下部の前面を持ちながら、ゆっくり引き出します。このときドライブを落とさないようにしてください。

取り付けるには

ここでは、フロッピーディスクドライブユニットを例に説明していますが、CD-ROMドライブユニットの場合も取り付け方法は同じです。

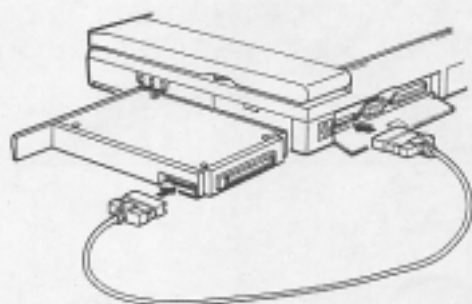
⚠注意 **交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で交換することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。****(→ 98ページ)**

1 ドライブユニットの向きを間違えないように、スロットにゆっくりと押し込みます。ドライブユニットは図に示すような方向にしか装着できません。簡単に入らないときは向きが間違っています。無理に押し込まずに、もう一度正しい向きに入れ直してください。

2 正しく装着されたら、ドライブユニットロックボタンがロックされます。

3 本体底面のドライブユニット取り出しボタンを矢印の方向にスライドさせます。

フロッピーディスクを外付けで使うには

CD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブを同時に使うときは、付属のFDDケーブルを使って、フロッピーディスクドライブユニットを外付けにします。

11 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブユニットが付属されています。ここでは、フロッピーディスクの取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適当な場所に保管するようにしてください。

⚠注意

テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。

特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。

内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。

ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます。)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

Note 読み書きできるフォーマットは?

出荷時のままの状態では、2DD(両面倍密度倍トラックタイプ)の720KB、2HD(両面高密度倍トラックタイプ)の1.44MB･1.2MBの各フォーマットのフロッピーディスクを読み書きできます。

1.2MBでのフォーマットは?

1.2MBのフロッピーディスクを認識可能にする、3モードドライバ(出荷時インストール済み)はリード/ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行なえません。また、1.2MBのディスクから起動することもできません。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができるようになっています。

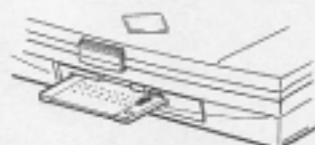
ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

- 書き込み禁止ノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
- 書き込み禁止ノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。

フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

キーボード操作に馴れよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作に馴れていない方は必ずお読みください。

キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。

システムファンクションキー　　文字入力キー

制御キー

キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。

文字入力キー(薄い色の部分)

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CpLk Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使いかたについては、53ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(濃い色の部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

Note ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。

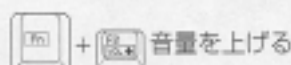
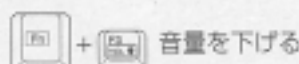
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。

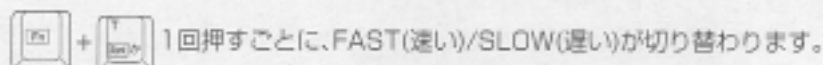
システムファンクションキー

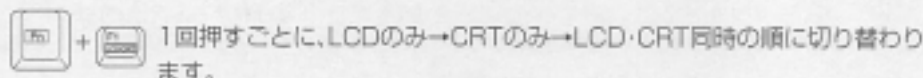
制御キーの一つである[Fn]キーと[Esc]キー、または、ファンクションキーの組み合わせにより、パワーマネージメントのメニューを呼び出したり、クロックスピードを変えることができます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

パワーマネージメントメニューを呼び出す(→ 94ページ)

を押す

スピーカの音量を調整する（MS-DOSモードのみ）

音量を上げる

[Fn]+[F2] 音量を下げる

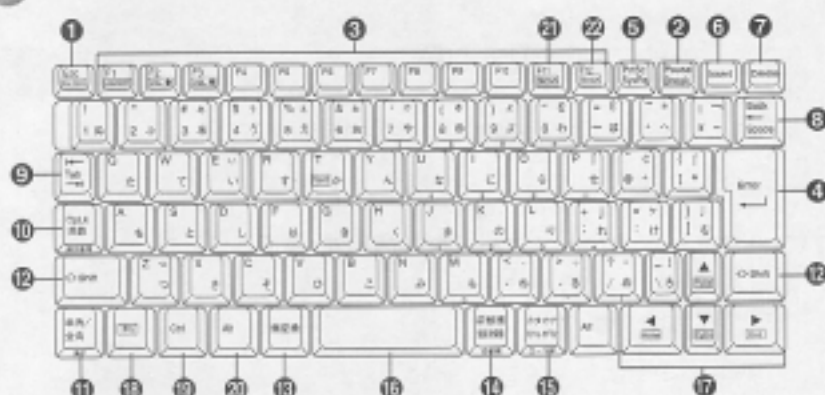
クロックスピードを変える

[Fn]+[ScrLk] 1回押すごとに、FAST(速い)/SLOW(遅い)が切り替わります。

LCD表示かCRT表示かを切り替える

1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

ディスプレイについては、83ページをお読みください。

Note システムコンフィグレーションメニューの呼び出し

コンピュータの動作を設定するシステムコンフィグレーションメニューを呼び出すには、コンピュータの起動時に[Ctrl]+[Alt]+[S]の3つのキーを同時に押します。なお、設定を変更した後は自動的にシステムが再起動されます。システムコンフィグレーションメニューを呼び出す前には、作成したデータなどは必ず保存しておいてください。設定方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→ 86ページ)をお読みください。

各キーの機能

中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ESC(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー

F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行させることができます。

画面のハードコピーをとったり、Windows®95の画面を取り込むのに使います。

❺PrtSc(プリントスクリーン)キー

Windows®95を使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❾Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tabキーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿CpLK(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、Altキーを押してからこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換しないときに押します。

⓮変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと切り替わります。また、Ctrl Shiftキーと同時に押すとカナキーのON／OFFを切り替えることができます。

⓰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース(空白)を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓱カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向にカーソルを移動するときに使います。また、Fnキーと同時に使うと、ページ切り替えキー(PgUp/PgDn)、Home(ホーム)キー、End(エンド)キーとして機能します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に□で表記されている機能を使うときに、そのキーと同時に押します。

⓳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより特定の動作をさせることができます。

⓴Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能やカーソルの動きを変えることができます。

㉑NumLk(ナンバーロック)キー【ロックされます】

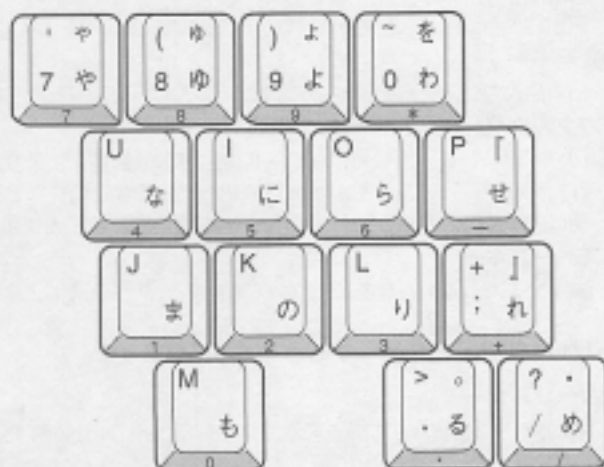
Fnキーと同時に押すと、キーボードの右半分の部分を数字キーとして使えるようになります。この状態をニューメリックキーパッドといいます。

㉒ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】

キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

テンキーを使って数字を入力する

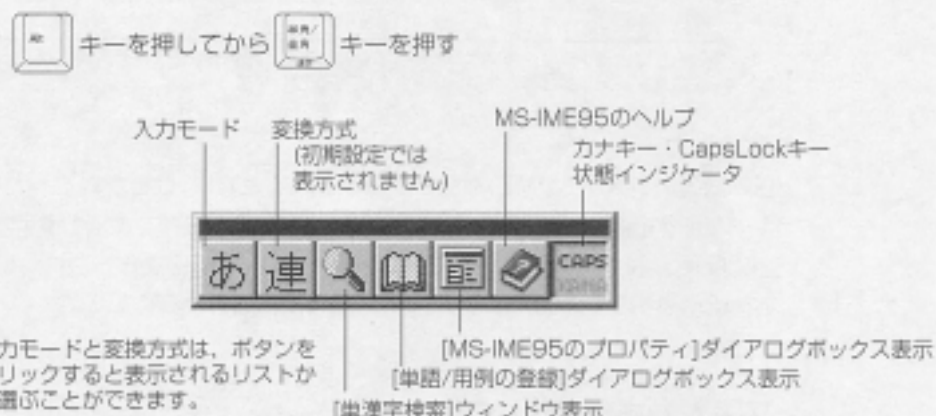
通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fnキーと同時にNumLkキーを押すことにより、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができるので便利です。

Note 電源ONのままカバーを閉じると

サスペンド・レジュームが有効になっているときに、電源をONのままカバーを閉じると、サスペンド・レジューム状態に入ります。(→ 99ページ)

文字を入力する

キーボードから文字を入力する方法について説明します。ここでは、本製品にインストールされている日本語入力システム MS-IME95を例に説明しています。別の日本語入力システムをお使いのときは、お手持ちのマニュアルをお読みください。

入力方法について

Windows®95起動直後は何も表示されていませんが、デスクトップ上をクリックすると日本語入力システム(IME)のツールバーが現われます。「A」と表示されている状態(直接入力モード)では、半角のアルファベット/カタカナ/数字と、キーボードに表記されている記号だけしか入力することができません。左端の「A」と表示されているボタンをクリックして入力モードを選ぶか、次のように操作をするとツールバーに各ボタンが表示され、全角の文字や漢字を入力できるようになります。

ローマ字入力とかな入力

ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときは[K]と[A]を続けて押すことで「か」が入力できます。
かな入力は、入力するキーをそのまま押してかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
どちらの方式で日本語入力システム(IME)を起動するかは、[MS-IME95のプロパティ]の中で設定します。
また、ローマ字入力のときに[Ctrl]と[Shift]と[ひらがな]を同時に押すと、カナキーがONになり、一時的にかな入力できるようになります。(かな入力のときは、カナキーのON/OFFを切り替えるだけで、ローマ字入力にはなりません。)

文字の種類と入力モード

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。文字の種類を変える方法には2通りあります。

・入力前に文字の種類を決めておく ･･･ 切替キーを押すか、ツールバーの[入力モード]ボタンでモードを選んでから入力する

・入力後に文字の種類を決める ･･････ 全角ひらがな・カタカナモードで文字を入力してから[F6]～[F10]キーで希望の文字種に変換する

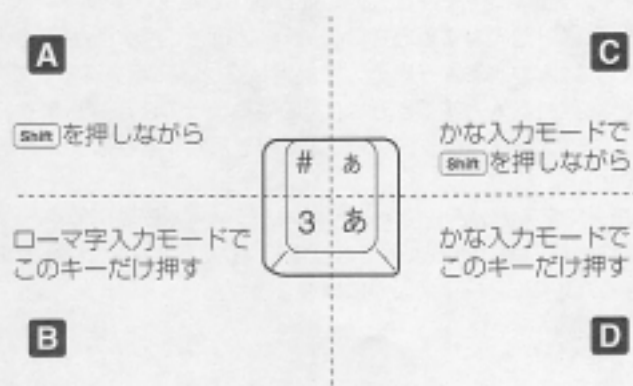
モード	画面表示	切替キー	変換キー
全角ひらがな	あ	[ひらがな]	[F6]
全角カタカナ	ア	[Shift]＋[カタカナ]	[F7]
全角英数	Ａ	[英数]	[F8]
半角カタカナ	ｱ	[Shift]＋[カタカナ][半角/全角]	[F9]
半角英数	A	[英数][半角/全角]	[F10]

※ひらがなと漢字には全角文字しかありません。また、半角カタカナ・半角英数から全角文字に切り替えるときは[半角/全角]キーを押します。

漢字の入力

日本語入力システム(IME)が立ち上がっているときに、ひらがなで入力してから[変換]キーを押すと漢字に変換されます。もう一度[変換]キーを押すと別の漢字が表示され、さらに[変換]キーを押すと候補一覧が表示されます。詳しい操作方法については、付属のWindows®95マニュアルのMS IME95の項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CpLk][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。

文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがな(あ、い、う)				
カナ入力		あ	ひらがな	文字キー D
ローマ字入力		あ	ひらがな	文字キー A
小さいひらがな(っ、ゃ、ゅ、ょなど)				
カナ入力		あ	ひらがな	Shift+文字キー C
ローマ字入力		あ	ひらがな	文字キー A の前に X
大きいカタカナ(ア、イ、ウ)				
カナ入力		ア ｱ	Shift+カタカナ	文字キー D
ローマ字入力		ア ｱ	Shift+カタカナ	文字キー A
小さいカタカナ(ッ、ャ、ュ、ョなど)				
カナ入力		ア ｱ	Shift+カタカナ	Shift+文字キー C
ローマ字入力		ア ｱ	Shift+カタカナ	文字キー A の前に X
アルファベット小文字(a、b、cなど)＊1				
ローマ字入力		A A	英数	文字キー A
アルファベット大文字(A,B,Cなど)＊1				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	A A	英数	Shift+文字キー A
	連続して入力	A A	Shift+英数	文字キー A
かな記号(、。・「」など)				
カナ入力・ローマ字入力		あ ア ｱ	ひらがな	記号キー A B C
英記号(!,@,#,$,%,^,&,*など)＊1				
ローマ字入力		あ ア ｱ A A		Shift+記号キー A B C
数字＊1				
ローマ字入力		あ ア ｱ A A		数字キー B ＊2

＊1 カナ入力の場合は、カナキーをOFFに切り替えてから入力します。

＊2 Fnキーと同時にNumLkキーを押すことにより、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

Note 大文字/小文字モードに固定するには

ShiftキーをおしながらCapsLkキーを1回押すと、「CAPSロック」がON・OFFされ、大文字固定入力(ON)と小文字固定入力(OFF)が切り替わります。ON・OFFの状態は、本体のステータスLEDか、ツールバーのインジケータに示されます。

Note 1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

Shiftキーを押しながらアルファベットキーを押すと、固定入力のモードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードでShiftキーとAを同時に押すと「a」を入力できます。

マルチメディアを楽しもう

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品に搭載されているサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたなどについて説明しています。

サウンド機能を使う

本製品には、16ビットサウンドブラスタPRO互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やステレオスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

内蔵スピーカについて

本体には左右にステレオスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の5種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、Windows®95のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることができます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
PCカード	PCカードから発生する音声です。 音声出力機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。 (モデムカードなど)
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	内蔵マイクやマイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。

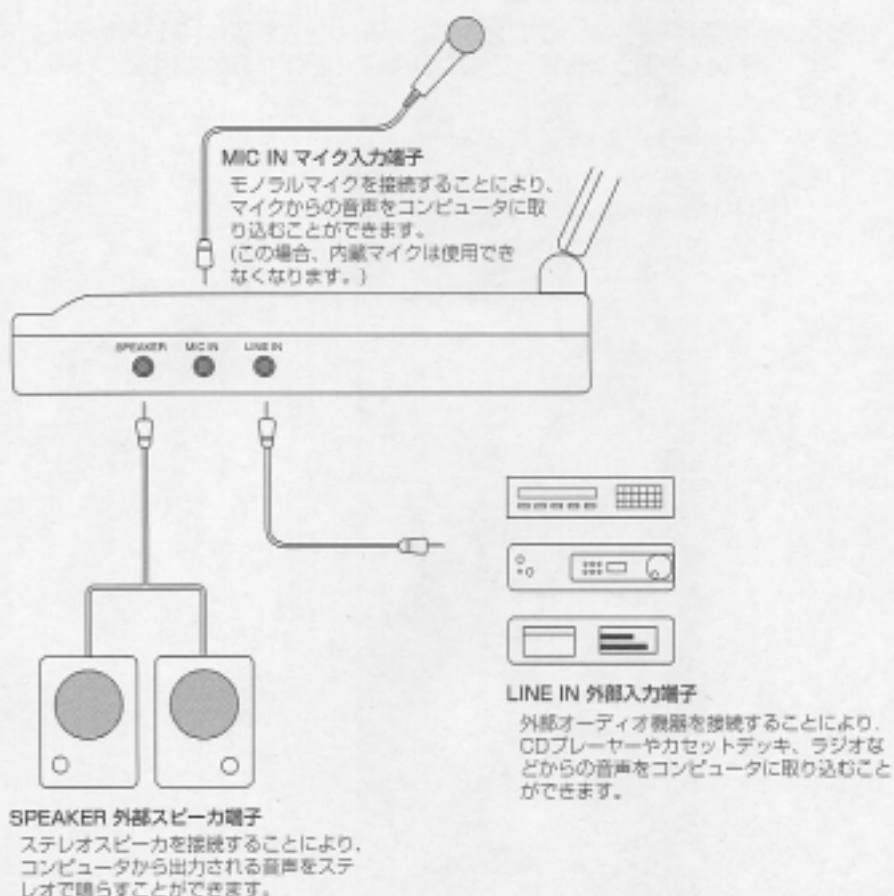
内蔵マイクについて

本体上面の右手前にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。

Note 音量を調節するには

スピーカの音量は、タスクバーの をクリックし、表示されるボリュームコントロールで調節します。

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の右側面には、マイクや外部スピーカ、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。

Note PCスピーカとサウンド機能のミキサー

PCスピーカとPCカードからのサウンドは、一度、サウンドLSIのミキサー回路の"CD"左チャネルに入力され音量調節された後、スピーカに出力されます。
したがって"ボリュームコントロール"で"CD"の音量を変化させるとPCスピーカ、PCカードからのサウンドの音量も変化します。

MS-DOSアプリケーション使用時

本製品のサウンド機能は、サウンドブラスタPRO(FMシンセサイザ機能を除く)と互換があります。
ゲームソフトなどのサウンド機能をサポートしているMS-DOS用のソフトウェアを使用する場合、サウンドの設定は、「サウンドブラスタ」または「サウンドブラスタPRO」を選択してください。
また、設定時には、I/Oポートアドレス、IRQチャネル、DMAチャネルが次の値に設定されているかどうか確認してください。(この設定を行なえないソフトウェアもあります)

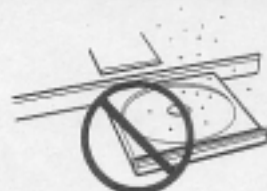
I/Oポートアドレス :220H
IRQチャネル :5
DMAチャネル :0
データビット幅 :8bit

CD-ROMを使う

本体のドライブユニットスロットに付属のCD-ROMドライブユニットを装着して、CD-ROMを使う方法について説明します。
CD-ROMドライブユニットの装着方法については「10 ドライブユニットを交換する」(➔ 41ページ)で説明しています。

CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適当な場所に保管するようにしてください。

⚠ 注意

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリ入り込んで故障の原因になります。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必らずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

Note　イジェクトされないときは

何らかの理由でイジェクトボタンを押してもトレーが出なくなったときは、電源がOFFの状態でイジェクトボタンの右側の穴に細いピンを差し込んでください。ディスクが排出されます。
なお、この操作は電源ON時には絶対に行なわないでください。

CD-ROMの出し入れ

1 コンピュータ本体の電源をONにします。

2 イジェクトボタンを押します。

3 CD-ROMをセットします。文字が書かれている面を上にして、トレーに静かにのせます。

4 もう一度イジェクトボタンを押します。

5 取り出すときは、アクセスランプが点灯していないのを確認してからイジェクトボタンを押します。

CD-ROMで楽しむ

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本製品ではこれらすべてのCD-ROMを再生することができます。

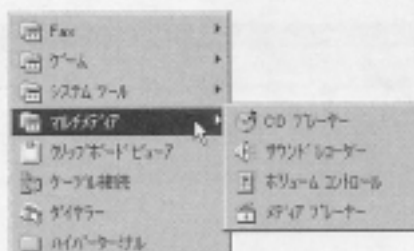
● **CD-DA**
音楽用CDです。ディスクをCD-ROMドライブにセットすると、Windows®95の「CDプレーヤー」が自動的に起動し、再生させることができます。

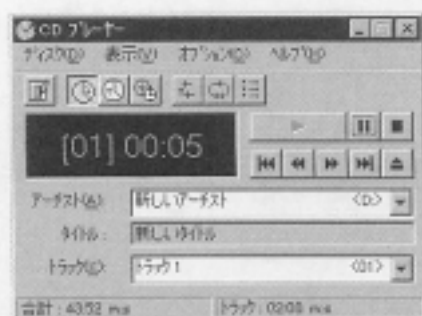
● **CD-ROM XA**
パソコンのデータやアプリケーションなどを記録することができる最もよく使われているCD-ROMです。

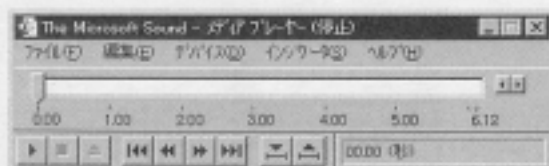
● **Photo CD**
1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録することができる規格です。Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

マルチメディア機能を使う

Windows®95には、マルチメディアを楽しむためのいろいろな機能が用意されています。ここでは、これらについて説明します。

マルチメディアを楽しむツールは、[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】-【アクセサリ】-【マルチメディア】から起動します。

CDプレーヤー

音楽用のCDを再生するプレーヤーです。ディスクをCD-ROMドライブにセットするだけでが自動的に起動し、再生させることができます。
他のアプリケーションと同時に使えますので、お気に入りの音楽を聴きながらワープロで文章を書くといったこともできます。また、アルバムタイトルやアーティスト名などを登録したり、好きな曲だけを選んで再生させるといったことも可能です。

メディアプレーヤー

WAVフォーマットのサウンド、Video for Windowsで作られたAVIフォーマットのビデオなどを再生するプレーヤーです。この他にも、デバイス(周辺機器やドライバ)を追加することによりMIDIファイルで音楽を演奏したり、MPEG形式のビデオを再生させることもできます。
インストールされているWindows®95には、いくつかのサンプルが用意されており、すぐに楽しむことができます。

サウンドレコーダー

マイクやLINE IN端子から入力された音声を編集し、録音することができます。録音したサウンドは、WAV形式のサウンドファイルとして保存できます。再生速度を変えたりエコーをかけることもでき、オリジナルのサウンドを簡単に作り出せます。また、本製品にはマイクが内蔵されていますので、ボイスメモとして活用することも可能です。

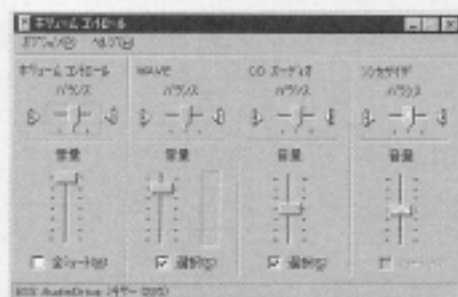
Note Video for Windows

マイクロソフト社が開発したデジタル動画編集再生ソフトです。ビデオカメラで撮影した映像などをビデオキャプチャーボードを介してコンピュータに取り込み、編集してファイル(拡張子はAVI)に保存できます。Windows®95には、再生機能のみ搭載されています。

Note MIDI(ミディ)

電子楽器を外部からコントロールするための標準インターフェイスです。コンピュータに市販のMIDI音源(様々な楽器の音色が記憶されている)を接続し、MIDIファイル(拡張子はMID・RMI)をメディアプレーヤーで読み込むことにより、音楽を高音質で演奏させることができます。

ボリュームコントロール

マイクやLINE IN端子から入力された音声や、WAVファイル、MIDIファイルなどの音声、音楽用CDから出力される音声の音量やバランスを、音源ごとに調節することができます。

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、内蔵FAXモデムの取り付け方法、メモリやハードディスクを交換する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠のPCMCIAカード(以下、PCカード)を装着するためのPCカードスロットを搭載しています。ここでは、PCカードの装着方法とモデムカードとLANカードを使うときの注意事項などについて説明します。

PCMCIA規格について・・・

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Architectureの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用することができるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。
ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

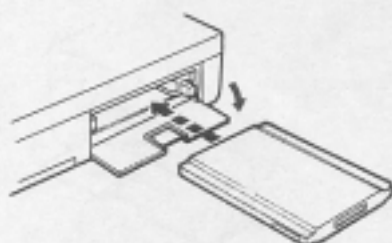
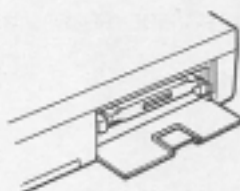
カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPEⅠ(厚さ3.3mm)、TYPEⅡ(厚さ5.0mm)、TYPEⅢ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPEⅠまたはTYPEⅡのカードを2枚、またはTYPEⅢのカードを1枚装着することができます。

カードの抜き差し

PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐに使えるようになります。
なお、装着する前は、PCカードを利用するアプリケーションを実行しておいてください。例えば、モデムカードを使うときは、先に通信ソフトウェアを実行します。逆の順序では正しく動作しません。

カードを装着する

1 カードスロットカバーを図の方向に開けます。

2 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタが付いているほうを奥にして、ゆっくりと差し込みます。正しく装着されると、カードイジェクトボタンが飛び出します。

・TYPEⅢのカードの場合、スロット2(下)に差し込みます。

⚠注意 異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。

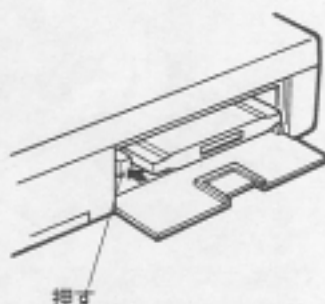
Note ビープ音が鳴らないときは

システムコンフィグレーションのPCスピーカの設定がOFFになっています。(→ 92ページ)

3 正しくカード用ドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んだときにビープ音が1回鳴ってシステムがカードを認識します。

カードを取り外す

1 取り外したいカードが装着されている側の、カードイジェクトボタンを押します。

2 カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。
システムの動作中に、カードが取り外されたときは、ビープ音が2回鳴ります。

⚠注意 PCカードを取り外す前に、HDD/FDDアクセスランプが消えていることを確認してください。

モデムカードを使う

モデムカードを装着して電話回線をつなぐと、MS WorksやWindows®95の通信ツールを使ってデータの送受信を行なうことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

	COMポート番号	IRQ	アドレス
最初のモデムカード	3	3	3E8h
2枚めのモデムカード	4	10	2E8h

モデムを使ったアプリケーションの通信ポート、割り込みチャネル(IRQ)を設定する場合は、上記の説明にあわせて行ってください。
なお、内蔵FAXモデムが装着されているときは、2枚目のモデムカードを使用することはできません。

MS Worksの通信ツールを使うときの注意

MS Worksの通信ツールとモデムカードを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

・モデムカードは、MS Worksを起動する前に装着してください。
MS Worksが起動してからモデムカードを装着しても、認識されません。

・MS Worksの通信ツールのデフォルトポートは内蔵FAXモデム、つまりCOM2に設定されています。COM2以外の設定をデフォルトで使用したい場合は、【ツール】、【環境設定】の通信の設定を、現在のCOM2から希望するポートに切り替えてください。

Word I/Oアドレス

CPUがデータをやり取りするために使用するチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®95ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

IRQ

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®95ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

・【設定】の【モデムの設定】を実行する場合に、MS Worksのヘルプ "いっしょにやってみよう" を開くと、PCMCIAのエラーメッセージが正しく表示されないことがあります。このような場合には、あらかじめ "いっしょにやってみよう" を閉じてからモデムの設定を実行してください。

・MS WorksはCOM1からCOM4の各通信ポートにスキャンを行います。この場合、PCMCIA通信ポートに割り当てられているCOM2からCOM4でPCMCIA通信ポートが存在しない旨のエラーメッセージが何回か発生します。

LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本製品をLANにつなぐことができます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができます。装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

	I/Oアドレス	IRQ	メモリ1	メモリ2
最初のLANカード	300H	10	D4000H	D6000H
2枚めのLANカード	310H	3	D0000H	D2000H

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、認識方式が決められています。この場合、カード認識用ドライバをインストールして設定を行う作業が必要になります。LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行なってください。

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

内蔵FAXモデムを使う

本製品には、別売の内蔵FAXモデムを装着するためのスロットが搭載されています。ここでは、このスロットへの内蔵FAXモデムの取り外しと取り付けの方法、および、Windows®95でのモデムのセットアップ方法について説明します。

内蔵FAXモデムについて

内蔵FAXモデムを装着すると、本製品にデータの送受信とFAXの送受信機能が加わります。電話回線に接続して、Windows®95やMS Worksの通信アプリケーションを起動させるだけで、簡単にパソコン通信を行なうことができます。本製品で作成したデータや電子メールなどを送ったり、様々な情報を受けることが可能になりますので、本製品をさらに幅広く活用できます。

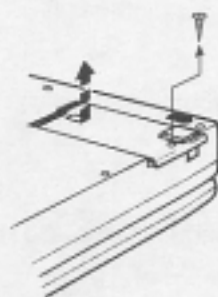
内蔵FAXモデムの設定

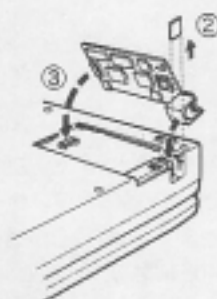
COMポート番号	IRQ	アドレス
2	3	2F8

この設定は、システムコンフィグレーションの【Setup】のComponent-COM Portsで変更することができます。

内蔵FAXモデムを取り付けるには

⚠注意　取り付けの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 98ページ)

1 本体底面の内蔵FAXモデムスロットカバーのネジをプラスドライバで外してから図の方向に開けます。

2 モジュラージャックカバーを図の方向にスライドさせて取り外します。(モジュラージャックカバーは紛失しないように保管してください。)

3 内蔵FAXモデム本体を、図の方向にゆっくりと差し込みます。

4 モジュラージャックカバーを本体に取り付け、内蔵FAXモデムスロットカバーを元通りに閉めます。

内蔵FAXモデムを取り外すには

⚠注意 **取り外しの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。****(→ 98ページ)**

1 本体底面の内蔵FAXモデムスロットカバーのネジをプラスドライバで外してから図の方向に開けます。(取付図参照)

2 内蔵FAXモデム本体を、ゆっくりと引き抜きます。(取付図参照)

3 内蔵FAXモデムスロットカバーを元通りに閉めます。(取付図参照)

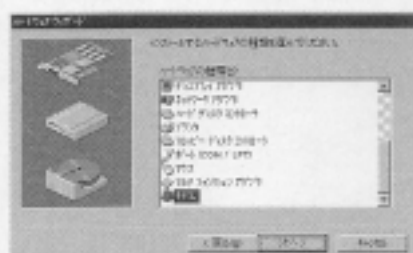
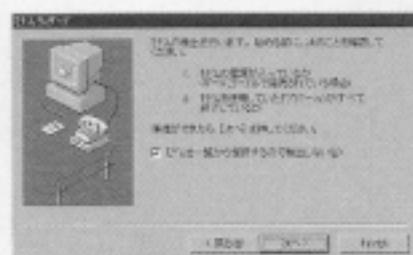
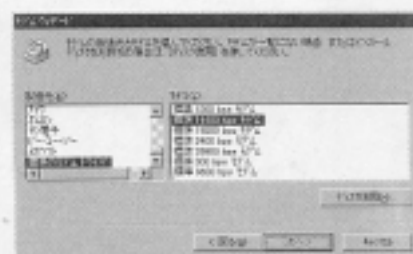
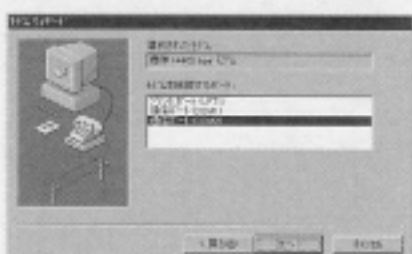
⚠注意 **内蔵FAXモデムは電気等の障害を受けやすいため、取り外した後は必ず元のパッケージに入れて保管してください。**

内蔵FAXモデムをセットアップするには

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[ハードウェア]アイコンをダブルクリックし、ハードウェアウィザードを実行します。

3 [いいえ]を選んでから[次へ>]をクリックします。

4 「ハードウェアの種類」から「モデム」を選び[次へ>]をクリックします。

5 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を選び[次へ>]をクリックします。

6 「製造元」から「標準のモデムドライバ」を、「モデム」から「標準 14400 bpsモデム」を選び[次へ>]をクリックします。

7 「モデムを接続するポート」から「通信ポート(COM2)」を選び[次へ>]をクリックします。

8 モデムに接続されている電話回線の電話番号を入力して[次へ>]をクリックします。

9 これでモデムのセットアップは終わりです。

4
システムを拡張する

メモリを増設する

本製品には、8MBのシステムメモリがマザーボード上に装着されていますが、DIMM型拡張RAMモジュールを増設することにより最大40MBまでメモリを使うことができるようになります。

⚠注意 DIMM型拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。

拡張RAMモジュールの装着

本製品には、8MB、もしくは16MBタイプの2種類の拡張RAMモジュールを2枚まで装着できます。

⚠注意 装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントメニューでの電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 98ページ)

1 本体底面の拡張RAMエリアのカバーを開けます。

2 拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。

3 拡張RAMエリアのカバーを閉めます。

4 電源をONにすると、RAM容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

5 Ctrl+Alt+S を同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

6 システムが装着された拡張RAMモジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

7 システムコンフィグレーションメニューを終了させます。
【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→ 86ページ)をお読みください。

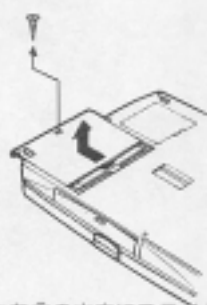
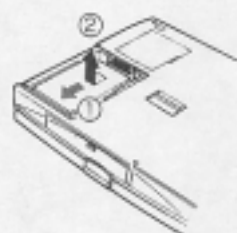
ハードディスクドライブを交換する

本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクドライブを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

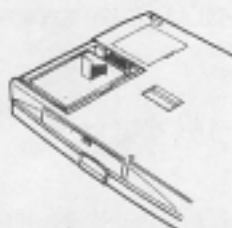
⚠注意 ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

ハードディスクを取り外すには

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(➔ 98ページ)

1 本体を裏返してからカバーのネジをプラスドライバで外した後で、カバーを図の方向にスライドさせて取り外します。

2 ハードディスクを①の方向にスライドさせた後で、②の方向に持ち上げて取り外します。

ハードディスクを取り付けるには

⚠注意　交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 98ページ)

1 コネクタを合わせるようにして、ゆっくりと押し込みます。ハードディスクは、図に示すような方向にしか装着できません。簡単に入らないときは向きが間違っています。無理に押し込まずに、もう一度正しい向きに入れ直してください。

2 カバーを元通りに取り付けネジをしめます。

3 電源をONにすると、環境が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

4 Ctrl+Alt+Sを同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

5 システムが装着されたハードディスクの環境を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

Note 出荷時に装着されているドライブの内容

本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブには、サブディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

6 システムコンフィグレーションメニューを終了します。

【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

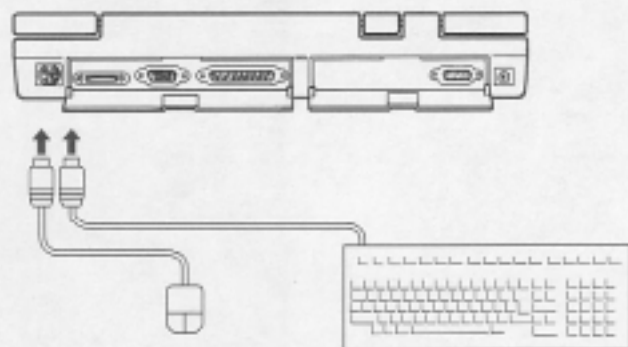
システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔ 86ページ)をお読みください。

Note 新しいハードディスクを使うときは

未フォーマットの新しいハードディスクドライブを使うには、ドライブをフォーマットする必要があります。フォーマットするには、[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、フォーマットするドライブをクリックしてから、メニューバー【ファイル】-【フォーマット】を選びます。フォーマットについての詳しい説明は、ヘルプをお読みください。

外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボード·テンキーパッドやマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードとマウスを接続することができます。

⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド·レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 98ページ)

本体背面の右側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボード·テンキーパッドのケーブル、もしくは、マイクロソフトPS/2マウスを接続します。
接続されたキーボード·テンキーパッドとマウスは、コンピュータの電源をONにしたときに自動的に認識されます。

使用時の注意

グライドポイントとPS/2マウスは同時に使用することができません。どちらを使用するかはシステムコンフィグレーションの【Components】-【GlidePoint】の設定で切り替えます。デフォルトはグライドポイントが有効ですので、PS/2マウスを使用するときは無効にしてください。
なお、PS/2マウスでも一部のメーカーの製品では、サスペンド·レジューム、およびグライドポイントとの同時使用に対応しているものがあります。対応していない製品を使っているときにサスペンド·レジューム状態に入ると、マウスカーソル(ポインタ)が動かなくなったり入力操作ができなくなりますのでご注意ください。

Note 外部キーボードとマウスを同時に使う

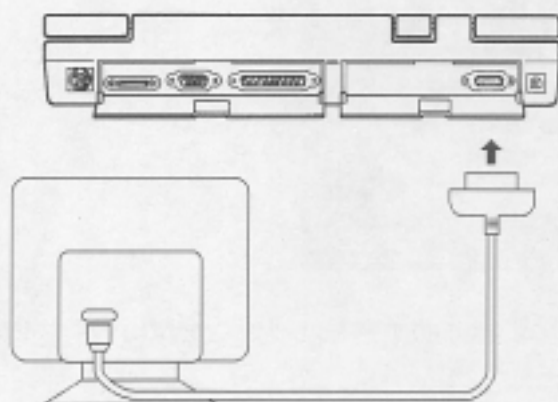
別売りのキーボード·マウス接続アダプタを接続すると、PS/2マウスとPS/2外部キーボードを同時に接続できます。なお、IBM製の接続アダプタをお使いの場合は、キーボードとマウスの表示が逆になります。キーボードの表示側にはマウス、マウスの表示側にはキーボードを接続してください。

外部テンキーパッドを使う

外部テンキーパッドは接続すると自動的に認識されます。内部キーボードで通常の入力を行ないながら同時に使用する場合は、内部キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。なお、使用できる製品についてはは弊社テクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、1024×768ドットの解像度で表示できるようになり、Windows®95をより広い画面で快適に使うことができます。

⚠注意　接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 98ページ)

コンピュータの背面にある外部CRTコネクタに、外部モニタのケーブルを接続します。システムコンフィグレーションメニューのVGAのLCD/CRT設定がCRTまたはBOTHの場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCDまたはBOTHの設定にしてください。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→86ページ)をお読みください。

⚠注意　外部モニタを接続した場合、Windows®95のコントロールパネル[画面]の中で「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は次ページをお読みください。

Note　一時的に表示ディスプレイを切り替える

[Fn]+[F1]を1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

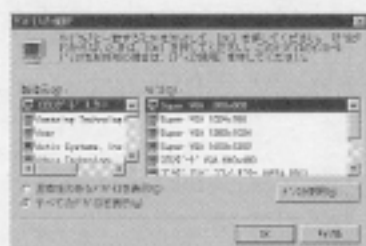
ディスプレイの種類を設定するには

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。

3 [ディスプレイの変更]をクリックします。

4 「ディスプレイの種類」の[変更]をクリックし、[すべてのデバイスを表示]を選びます。

5 「製造元」でディスプレイのメーカーを選びます。「モデル」でディスプレイの型番を選びます。本体LCDで「1024×780」に設定する場合は「Super VGA 1024×768」を選びます。

6 [OK]をクリックしてから、[閉じる]をクリックします。

7 「カラーパレット」で色数を、「デスクトップ領域」で解像度を設定し、[OK]をクリックします。

8 Windows®95を再起動する必要があります。[システム設定の変更]ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

システムの設定を変える

システムコンフィグレーションを使ってシステムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について説明しています。

システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

- カレンダの日付と時間を設定する(→ 89ページ)
- 起動方法と起動ドライブを設定する(→ 89ページ)
- ディスプレイモードを設定する(→ 89ページ)
- パスワードを設定する(→ 90ページ)
- キャッシュメモリを使うかどうか設定する(→ 90ページ)
- ハードディスクドライブの環境を設定する(→ 90ページ)
- COMポートを選択する(→ 91ページ)
- プリンタポートと動作モードを選択する(→ 91ページ)
- キーボードの動作を設定する(→ 91ページ)
- 起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする(→ 91ページ)
- グライドポイントを使うかどうか選択する(→ 91ページ)
- サウンド機能を使うかどうか選択する(→ 92ページ)
- スピーカから音を鳴らすかどうか選択する(→ 92ページ)
- システムコンフィグレーション画面の色を変更する(→ 92ページ)
- メニューを簡易化する(→ 92ページ)
- 設定をデフォルト状態に戻す(→ 92ページ)
- デフォルト値をリストアする(→ 92ページ)
- システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する(→ 92ページ)

⚠注意　システムコンフィグレーションを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動されます。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、システムコンフィグレーションで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

メニューを表示させるには…

システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、コンピュータの電源をONにしたすぐ後のメモリチェックのところで[Ctrl]と[Alt]と[S]キーを同時に押します。

Windows®95が起動している状態からは、システムコンフィグレーションの設定は行なえません。必ずWindows®95が起動する前にこの操作を行なってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目は[Alt]を押してから[◀][▶]キーでメインメニューを選び、[▼]キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。

《項目の選択・設定の方法は》

（画面の設定値は例です）

・メインメニューを選択するには……………… Altキーを押してから、◀▶キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・サブメニューを選択するには………………… ▲▼キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・項目を移動するには…………………………… Tabキーを押します。
・メニュー項目や設定を確定するには………… ↵キーを押します。
・設定を変更せずに元に戻るときは…………… Escキーを押します
・サブメニュー内で有効・無効を設定するには… 　キーでチェックマーク(√)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
・項目内で有効・無効を設定するには………… ▲▼キーで移動し、　キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
・機能を使用しない設定にするには…………… [Always On][Disable][None]を選択します。
・終了するには…………………………………… メインメニューから[Exit]を選ぶとサブメニューが表示されます。また、Escキーを押すことで、[Save and Exit]を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

[Save and Exit]を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度↵キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。Escキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を変更して再起動させるときは》

[Save and Reboot]を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度↵キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了し、システムを再起動します。Escキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM. The
computer will be rebooted!!!
```

《設定を無効にして終了させるときは》

[Exit(No Save)]を選択して↵を押し、もう一度↵を押すと変更された設定が記憶されずにシステムコンフィグレーションを終了します。

各種の設定を行なう

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

● カレンダの日付を設定する

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている日付が表示されますので、項目を移動して数字キーで日付を入力します。数字は日/月/年の順番で並んでいます。

● カレンダの時間を設定する

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている時刻が表示されますので、項目を移動して、数字キーで時間を入力します。数字は時/分/秒の順番で並んでいます。

● 起動方法を設定する

【Startup】-【FastBoot】

クイックブート/ファーストブートを設定すると、メモリテストを行なわずに起動します。この場合、システムの立ち上げが速くなります。

● 起動ドライブを設定する

【Startup】-【Boot Device】

起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスク、PCカードのうちのいずれかから選択します。

● ディスプレイモードを設定する

【Startup】-【VideoSelect】

BOTHを選択するとCRTとLCDを同時に表示します。LCDはLCDのみ、CRTはCRTのみを表示します。

Note 起動ドライブについて

デフォルトでは、ドライブA(フロッピーディスクドライブ)にWindows®95の起動ディスクや、MS-DOSのシステムディスクがセットされている場合には、そこから起動します。セットされていない場合はドライブCのハードディスクからWindows®95が起動する設定になっています。

● パスワードを設定する

【Startup】-【Password】

Enable Password for Boot-up　システム起動時
Enable Password for SCU Changes　システムコンフィグレーション起動時

システム起動時、またはシステムコンフィグレーション起動時にパスワードを入力させることができます。
いずれの場合も、パスワードに使用できるのは英、数字のみで、4文字から8文字の長さで設定します。
パスワードの入力を間違った場合は3回まで再入力できます。3回とも間違えた場合は、システムが再起動されます。

```
Enter Password:________
```

⚠注意　パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

● キャッシュメモリを使うかどうか設定する

【Memory】-【L1 Cache Enable】 1次キャッシュ
【Memory】-【L2 Cache Enable】 2次キャッシュ
特に必要がない限りキャッシュは有効にしてください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードが遅くなります。

●ハードディスクドライブの環境を設定する

【Disks】-【Hard Disk】
ハードディスクドライブのディスクタイプなどを設定することができます。
ハードディスクドライブを交換した場合は、この項目を選択して設定を読み込ませる必要があります。また、「Disk Type」は常に「Auto-ID」に設定しておかなくてはなりません。

⚠注意　「Auto-ID」以外の設定にすると正常に動作しなくなります。また、シリンダやヘッドなどの項目は不用意に変更しないでください。

● COMポートを選択する

【Components】-【COM Ports】

シリアルポート(COM A)は、COM1(3F8)に、内蔵FAXモデム(Internal Modem)は、COM2(2F8)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはCOM1からCOM4の間で任意に設定できます。

● プリンタポートと動作モードを選択する

【Components】-【LPT Port】 ポートの設定

【Components】-【LPT Type】 動作モードの設定

通常はLPT1(378h)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはLPT2に設定することができます。動作モードは、通常「Bidirectional(PS-2)」に設定しておきます。

● キーボードの動作を設定する

【Components】-【Keyboard Repeat】

キーボードのオートリピートの間隔やオートリピートが始まるまでの遅延時間を設定できます。間隔は2cps(2文字/秒)から30cps(30文字/秒)までの範囲で設定できます。遅延時間は、$^1/_4$秒(250ms)から1ミリ秒(1000ms)までの範囲で設定できます。

●起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする

【Components】-【Keyboard Numlock】

システム起動時にキーボードのナンバーロック機能を有効にします。最初からテンキーパッドを使うときは有効にしておきます。

● グライドポイントを使うかどうか選択する

【Components】-【GlidePoint】

外部シリアルマウスおよびPS/2マウスを使用するために、内部グライドポイントの使用を禁止することができます。

Word オートリピート

ほとんどのキーは、押し続けることで連続してその機能を実行したり、文字を入力することができます。このように、何度も続けて押したときと同じ状態になることを「オートリピート」といいます。

● サウンド機能を使うかどうか選択する
【Components】-【Sound Chip】
PCカードスロットに別のサウンドカードまたは弊社MMU-2000を接続するときは、この設定を無効にします。

● スピーカから音を鳴らすかどうか選択する
【Components】-【Speaker】
チェックマークが付いているとスピーカから音が出ます。
なお、この機能で制御できるのはPCスピーカ(ビープ音)とPCカードからの音のみです。

● システムコンフィグレーション画面の色を変更する
【Startup】-【Configure SCU】-【ColorSheme】
色の設定は Default Colors/Alternate Colors/Monochrome/Inverse Mono の4種類から選択します。

● メニューを簡易化する
【Startup】-【Configure SCU】-【Easy Menu】
メニューを簡易化させて表示します。

● 設定をデフォルト状態に戻す
【Exit】-【Defaults】
各項目の設定値をデフォルトに戻します。
各項目のデフォルト値は次ページのとおりです。

●デフォルト値をリストアする
【Exit】-【Restore Settings】
システムコンフィグレーションの最後にセーブされた値をリストアします。

●システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する
【Exit】-【Version Info】
システムコンフィグレーション(BIOS)のバージョンおよび作成日付が表示されます。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Startup	Date and Time	No effect	デフォルトはありません
	Fast Boot	Not Fast Boot	メモリーテストを実行します
	Boot Device	Diskette A	フロッピーから最初にブート
	Video Select	LCD	LCDにのみ表示
	Password	Password Disabled	なし
	Configure SCU	Default Colors	
	〃	Complete Menus	
Memory	L1 Cache Enable	Enable	CPUキャッシュオン
	L2 Cache Enable	Enable	外部キャッシュオン
Disks	HardDisk	Auto-ID	自動設定
Components	COMPorts　COMA	COM1(3F8h)	シリアルポートはCOM1設定
	Internal Modem	COM2(2F8)	内蔵FAXモデムはCOM2に設定
	LPT Potrs	LPT1(378h)	プリンタポートはLPT1設定
	LPT Type	Bidirectional(PS-2)	
	Keyboard Numlock	Not Num Lock	NUMロックオフ
	Keyboard Repeat	Typematic Rate	10CPS 10文字/秒
	〃	Typematic Delay	500mS 0.5秒
	GlidePoint	Enable	グライドポイントは使用できる状態
	Sound	Enable	内部サウンド機能を使います
	Speaker	Enable On	PCスピーカ出力オン
Power	Enable Power	Saving Enable	パワーセーブを行なう
	Battery　Only	Disabled	
	Low Power Saving	Disable	
	High Power Saving	Enable	
	Customize	No effect	デフォルトはありません
	Suspend Switch	Disabled	サスペンドスイッチとしてではなく ON/OFFスイッチとして使用
	Suspend Controls	–	Suspend Timeout:never
	〃	–	Alarm Resume:Disabled
	〃	–	(時刻設定レジューム禁止)
	Cover Switch	Suspend	サスペンドを行なう

パワーマネージメントの設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのパワーセービング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存するサスペンド・レジューム機能が搭載されています。ここでは、これらの設定を行なう方法について説明します。

パワーマネージメントについて

パワーメネージメントとは、パワーセービング機能やサスペンド・レジューム機能を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

- ・パワーセービング機能を設定する（→ 96ページ）
- ・サスペンド・レジューム機能を設定する（→ 98ページ）
- ・カバーを閉じたときの動作を設定する（→ 99ページ）
- ・ビデオモニタリングを設定する（→ 99ページ）

⚠注意 パワーマネージメントを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動されます。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

メニューを表示させるには…

パワーマネージメントは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、Fn+Escキーを同時に押します。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目はAltを押してから◀▶キーでメインメニューを選び、▼キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。

《項目の選択・設定の方法は》

（画面の設定値は例です）

- ・メインメニューを選択するには……………… Altキーを押してから、◀▶キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- ・サブメニューを選択するには………………… ▲▼キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- ・項目を移動するには ………………………… Tabキーを押します。
- ・メニュー項目や設定を確定するには ………… ↵キーを押します。
- ・設定を変更せずに元に戻るときは …………… Escキーを押します
- ・サブメニュー内で有効・無効を設定するには…　　キーでチェックマーク(√)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- ・項目内で有効・無効を設定するには ………… ▲▼キーで移動し、　　キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- ・機能を使用しない設定にするには …………… 【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- ・終了するには ………………………………… メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、Esc キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度↵キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてパワーマネージメントが終了します。Escキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して↵を押し、もう一度↵を押すと変更された設定が記憶されずにパワーマネージメントを終了します。

各種の設定を行なう

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

パワーセービング機能の設定

● **パワーセービング機能を使うかどうか選択する**

【Power】-【Enable Power Saving】
パワーセーブ機能の有効/無効を設定します。

【Power】-【Battery Only】
バッテリパックを使用しているときのみパワーセーブ機能が有効になります。

● **クロックスピードを落とす**

【Power】-【Customize】-【CPU Timeout】　▲▼キーで値を変更
システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にCPUのクロックスピードを遅くするための機能です。時間は4秒から16秒の間で設定します。キーボードを押したりグライドポイントを操作するとクロックは元の速度に復帰します。

● **ディスプレイ表示を消す**

【Power】-【Customize】-【Video Timeout】
一定時間キーボードからの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD･CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間で設定します。

Note　クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にクロックスピードを落とす設定を行なっていると、稼動状態に検出が正しくできないことがあり、CPUのスピードが落ちてしまいます。このようなときは、無効(Always OnまたはDisable)に設定してください。

● ハードディスクの電源をOFFにする

【Power】-【Customize】-【Disk Timeout】

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクの電源をOFFにする機能です。このときハードディスクの電源は切れますが、システムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間で設定します。

● グローバルスタンバイにする

【Power】-【Customize】-【Global Timeout】

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の電源をOFFにします。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から16分の間で設定します。キーボードを押したりスティックポインタを操作するとグローバルスタンバイは解除されます。

●パワーセービングモードを設定する

【Power】-【Low Power Saving】
【Power】-【Medium Power Saving】
【Power】-【High Power Saving】

「クロックスピード」「ディスプレイ表示」「ハードディスクの電源」の3つをまとめて設定することができます。

それぞれのモードの時間設定は次のとおりです。

モード	クロック	ディスプレイ	ディスク	グローバル
Low Power Saving	16秒	16分	16分	16分
Medium Power Saving	8秒	4分	4分	4分
High Power Saving	4秒	1分	1分	1分

Note クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にグローバルスタンバイの設定を行なっていると、稼働状態に検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、無効(Always OnまたはDisable)に設定してください。

Note ネットワークを使っている場合

【Ｐｏｗｅｒ】の設定項目はすべて「Ａｌｗａｙｓ ｏｎ」に設定しておくことをお勧めします。

サスペンド･レジューム機能の設定

● サスペンド･レジューム機能を使うかどうか選択する

【Power】-【Suspend Switch】

電源スイッチを押したときの動作を設定します。電源をON/OFFするか、サスペンド･レジュームさせるかのどちらかを選択します。

電源ON/OFFが「チェックマーク無し」、レジュームが「チェックマーク有り」です。

● サスペンド･レジュームさせるまでの時間を設定する

【Power】-【Suspend Controls】-【Set Alarm Resume】

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。アラームレジュームを行なうように設定するとアラーム時刻設定を行なうための表示が出ますので、希望の時刻を入力してください。

● オートサスペンド

【Power】-【Suspend Controls】-【Suspend Timeout】

[ ]キーを押して[▲][▼]キーで値を選択

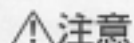
システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から60分の間で設定します。グローバルスタンバイよりも消費電力は少なくなります。任意のキーを押すなどの操作を行なうとサスペンド状態から復帰しますが、レジュームには数秒かかります。

Word サスペンド･レジューム

アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもファイルを読み込む必要がないので便利です。ただし、レジューム状態では、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能は、パワーマネージメントで有効か無効かを設定できます。

● カバーを閉じたときの動作を設定する

【Power】-【Cover Switch】

LCDカバーを閉じたときに、サスペンド状態に入るか、そのまま動作を継続するかを選択できます。

⚠注意　LCDカバーを閉じた状態で使用するときは内部の熱がこもらないように風通しの良いところでご使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合、過熱保護装置が機能し、システムの動作が遅くなります。この場合、電源をOFFにして温度が低下するまで使用しないでください。また、LCDカバーを閉じたまま使用した後、温度が下がらないうちにLCDカバーを開けて使用するとLCD上にムラが現れる場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、ムラは無くなります。

● ビデオモニタリングを設定する

【Power】-【Customize】-【Monitor Video Activity】

CPU Idol、GlobalStandby、AutoSuspendといったパワーセーブ機能を使用しているとき、アプリケーションプログラムによっては、この機能を設定している方が効果的にパワーセーブできる場合があります。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Power	Enable Power Saving	Enable	パワーセーブを行なう
	Battery Only	Disabled	
	Low Power Saving	Disable	
	Midium Power Saving	Disable	
	High Power Saving	Enable	
	Customize	No effect	デフォルトはありません
	Suspend Switch	Disable	サスペンドスイッチとしてではなく 電源ON/OFFとして機能
	Suspend Controls	–	Suspend Timeout:never
	-	–	Alarm Resume:Disabled
	-	–	(時刻設定レジューム禁止)
	Cover Switch	Suspend	サスペンドを行なう

5

システムの設定を変える

画面の解像度などを変える

本製品には、高解像度TFTカラー液晶ディスプレイが搭載されています。Windows®95では最高800x600ドット・65,536色で表示することができます。他の解像度・色数・フォントサイズで表示させるときは、「画面のプロパティ」で設定を変更します。

出荷状態の設定

製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	:本体LCD表示のみ
デスクトップ領域(解像度)	:800×600ピクセル
カラーパレット(色数)	:High Color(16ビット)…65,536色
フォントサイズ	:小さいフォント…16ドット

設定を変更する

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。

Note 表示させるディスプレイを変えるには

一時的に変更する場合は、Fn+F1を押すと(CRT->LCD->同時表示)の順で切り替わります。
常時一定の表示を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行ないます。
(→ 89ページ)

なお、同時表示の場合はLCD用表示回路の動作がCRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 各設定を変更します。

デスクトップ領域(解像度)は、本体LCD表示の場合「800×600ピクセル」「640×480ピクセル」に加え、「ディスプレイの種類」の設定を変更することにより、「1024×768ピクセル」も選ぶことができるようになります。(➔ 84ページ)

ただし、本体LCD表示で「1024×768ピクセル」に設定した場合は、仮想表示モードになります。

① **カラーパレット**　表示する色数を選びます

16色

256色

High Color(16ビット)…65,536色

(1024×768ピクセルの場合は、16色と256色のみです)

② **デスクトップ領域**　デスクトップの大きさ(解像度)を選びます。

640×480ピクセル

800×600ピクセル

1024×768ピクセル(「ディスプレイの変更」でディスプレイの種類の設定を変更すると選択できるようになります。➔84ページ)

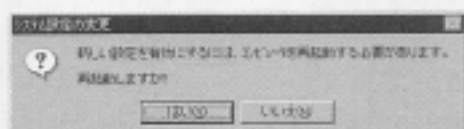
③ **フォントサイズ**　表示するフォントサイズを選びます。

小さいフォント

大きいフォント

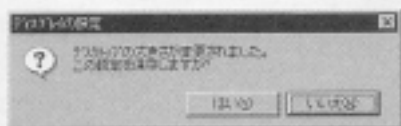
4 [OK]をクリックします。

カラーパレット・フォントサイズ・ディスプレイの種類を変更した場合

Windows®95を再起動する必要があります。[はい]をクリックします。

デスクトップ領域(解像度)のみ変更した場合

サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックすると数秒後に変更されます。

▼

変更したサイズを保存するときは[はい]をクリックします。

Note 仮想表示モードとは?

1024×768の表示面積の仮想ディスプレイがあるとして動作を行います。実際の表示は800×600ドットになっていますが、見えない部分(表示されない部分)は、カーソルを移動させると、自動的に画面がスクロールして見えるようになります。

Note 外部ディスプレイに表示させるときは

Windows®95を一旦終了させ、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコンフィグレーションでディスプレイ表示の設定を行なってからWindows®95を起動します。(➡ 89ページ)

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行なってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(➔ 12ページ)

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの販売店にご相談ください。
ハングアップした状態のときは電源に問題があります。	バッテリパックを取り外してACアダプタのみでもう一度電源スイッチをONにしてください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
輝度が正しく調整されていない。	輝度調整ノブで見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRTで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクがセットされている。	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。

●Windows®95が起動しない

考えられる原因	対処方法
メモリテストが正常に行なわれるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。(➔ 86ページ)
Windows®95のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、前回、Windows®95が正常に終了でき	「Starting Windows95」と表示されている間にF8キーを押してすぐに離すと起動メニューが表示されます。ここで、「Safeモード」を選ぶと、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。また、「Step-by-step Confirmation」(各コマンドの実行を確認する)を選ぶと、起動コマンドを1つずつ確認しながら起動できます。Windows®95起動時のトラブルの詳細についてはWindows®95のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(➔ 45ページ)
3モードドライバがインストールされていない状態で、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクがセットされている。	3モードドライバを再インストールしてください。(➔ 119ページ)なお、出荷時は、すでにインストールされていますので、1.2MBフォーマットでもそのまま読むことができます。
ドライブ指定が合っていない。	ドライブ指定を正しく設定し直してください。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●スーパーVGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使いたくないときは、パワーマネージメントの設定を変更してください。(➔ 94ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
外部マウスとグライドポイントを同時に使用している	専用キーボード・マウス接続アダプタをお買い求めのうえ使用してください。また、このアダプタには外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。

●カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対処方法
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、"ひらがな/カタカナ"キーなどが間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 48ページ)

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

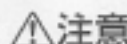
●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 33ページ)

●充電表示用LEDが点灯しない

考えられる原因	対処方法
バッテリ端子の接触不良。	バッテリを一度取り外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
パワーマネージメントメニューの設定が正しくない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 94ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 25ページ)

⚠注意　ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。

Appendix

再インストールの方法や、本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

ソフトやドライバの再インストール

Windows®95の再インストール

Windows®95の再インストールは、付属の起動ディスクからDOSモードでシステムを起動し、付属のWindows®95 CD-ROMからセットアップブログラムを実行して行ないます。作業を始める前に、本体にCD-ROMドライブユニットを装着し、フロッピーディスクドライブを外付け(➔ 43ページ)にしてください。なお、Windows®95が起動する場合は、Windows®95の中からセットアッププログラムを実行します。
セットアップ方法の詳しい説明は、付属のWindows®95のマニュアルをお読みください。

⚠注意 **Windows®95のCD-ROMから再インストールする場合は、「インターネットアプリケーション」がインストールされません。(➔31ページ)**

●必要なディスク　起動ディスク
　　　　　　　　　Windows®95 CD-ROM

1 フロッピーディスクドライブに付属の「起動ディスク」をセットします。

2 半角/全角 キーを押し、「106 日本語キーボード」を選択します。

3 プロンプトを、A ドライブから D ドライブに変更します。

```
A:¥>D:↵
```

4 Windows®95の入っているディレクトリに移ります。(xxxはWindows®95 CD-ROMのディレクトリ名です。)

```
D:¥>CD xxx↵
```

5 SETUP と入力して ↵ キーを押します。

```
D:¥XXX>SETUP↵
```

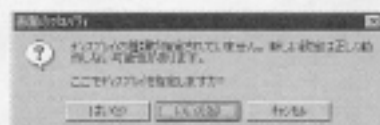
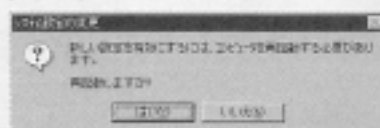
6 Windows®95のセットアップが開始されますので、表示される指示通り操作してください。(➔31 ページ) セットアップが終了するまでに2度ほどリブート動作がありますが正常です。途中で、フロッピーディスクを挿入するようメッセージが表示される場合もありますが、[OK] をクリックすれば、そのまま CD-ROM からの読み込みが行なわれます。

7 Windows®95 が起動されたら、本製品が正常に動作するように各種の設定を追加します。

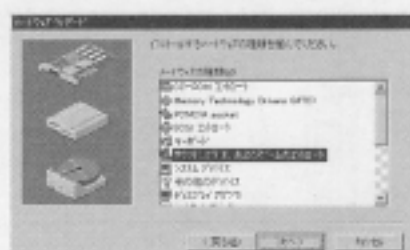
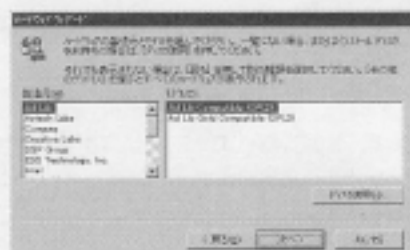
8 [スタート] ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

9 コントロールパネルの中の [画面] アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細] をクリックします。

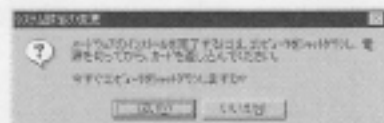
10「カラーパレット」を［High Color（16ビット）］、「デスクトップ領域」を［800×600ピクセル］、「フォントサイズ」を［小さいフォント］に設定します。設定が終わったら［OK］をクリックします。

11 ディスプレイの種類を設定します。本製品のLCDのみで使用するときは［いいえ］をクリックします。外部ディスプレイを接続する場合は［はい］をクリックして設定します。

12 再起動を確認するメッセージが表示されます。引き続いて他の設定も行ないますのでここでは［いいえ］をクリックします。

13 コントロールパネルの中の［ハードウェア］アイコンをダブルクリックし、［次へ>］をクリックします。

14［いいえ］を選んでから［次へ>］をクリックします。

15「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」を選び、[次へ>]をクリックします。

16「製造元」で[Ad Lib]、「モデル」で[Ad Lib Compatible (OPL2)]を選び、[次へ>]をクリックします。

17 リソースの種類と設定値が表示されます。そのまま[次へ>]をクリックします。

18[完了]をクリックします。

19 再起動を確認するメッセージが表示されます。引き続いて他の設定も行ないますのでここでは[いいえ]をクリックします。

20 コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックし、「音量の調節をタスクバーに表示する」にチェックマークを付けます。

21[OK]をクリックします。

22 設定を有効にするために、Windows®95を再起動させます。

これで、再インストールは終わりました。

MS Worksの再インストール

MS Worksの再インストールは、付属のCD-ROMからセットアッププログラムを実行して行ないます。
作業を始める前に、本体にCD-ROMドライブユニットを装着しておいてください。

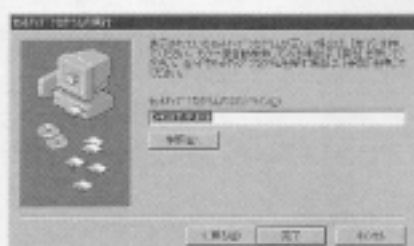
●必要なディスク　MS Works CD-ROM

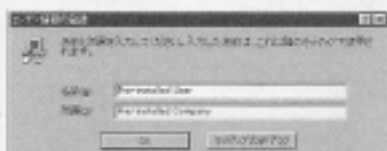
1 CD-ROM ドライブに付属のMS Works のCD-ROM ディスクをセットします。

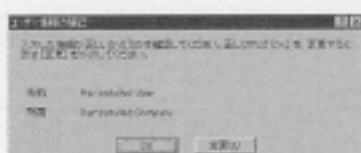
2 [スタート] ボタンをクリックし、メニューの【設定】・【コントロールパネル】を選びます。

3 コントロールパネルの中の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

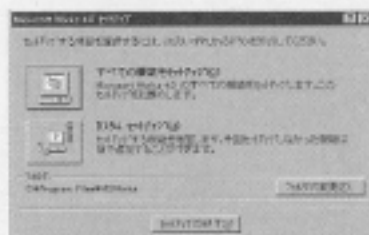
4 [セットアップ] をクリックします。

5 「セットアッププログラムのコマンドライン」に「D:¥SETUP.EXE」と表示されているのを確認して [完了] をクリックします。

6 セットアップが開始されます。[継続] をクリックします。

7 ユーザー情報を登録します。名前と所属（会社名など）を入力し、[OK] をクリックします。

8 ユーザー情報の登録を確認するメッセージが表示されます。間違いなければ [OK] をクリックします。

9 プロダクトIDを入力して［OK］をクリックします。IDは、「Certificate of Authenticity」に記述されています。

10 プロダクトIDを確認するメッセージが表示されます。［OK］をクリックします。

11 セットアップ先のフォルダ名を設定します。変更しないときは［OK］をクリックします。

12 セットアップする方法を選択します。通常は、［すべての機能をセットアップ］を選択します。

13 ショートカットアイコンを作成するかどうかを聞いてきます。作成する場合には［はい］をクリックします。

14 セットアップ終了のメッセージが表示されます。［OK］をクリックします。

これで、再インストールは終わりました。

ウイルスバスター95 Liteの再インストール

ウイルスバスター95 Liteの再インストールは、付属のフロッピーディスクからセットアッププログラムを実行して行ないます。
作業を始める前に、本体にフロッピーディスクドライブユニットを装着しておいてください。

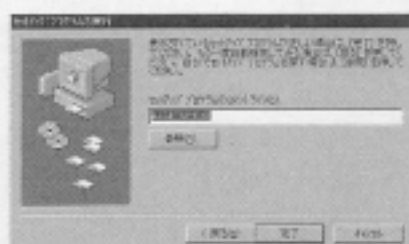
●必要なディスク　ウイルスバスター95 Liteのディスク

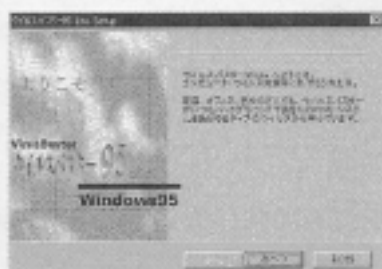
1 フロッピーディスクドライブに付属のウイルスバスター95 Liteのディスクをセットします。

2 ［スタート］ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

3 コントロールパネルの中の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

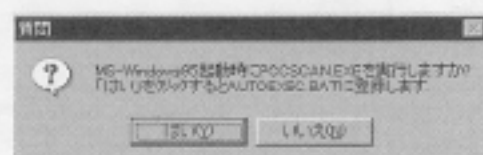
4 [セットアップ] をクリックします。

5 「セットアッププログラムのコマンドライン」に「A:¥SETUP.EXE」と表示されているのを確認して [完了] をクリックします。

6 [アプリケーションの実行]をクリックすると、グラフが表示されセットアップが準備されます。

7 セットアップの開始画面が表示されます。[次へ>] をクリックします。

8 ユーザー情報を登録します。名前と会社名を入力し、[次へ>] をクリックします。

9 セットアップ先のディレクトリ名（フォルダ）を設定します。変更しないときは [次へ>] をクリックします。

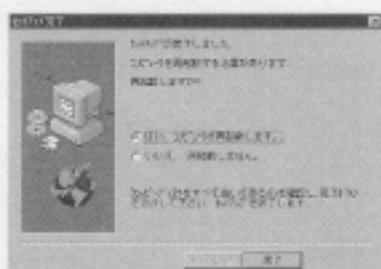
10「プログラムフォルダ」に「ウイルスバスター95 Lite」と表示されているのを確認して［次へ>］をクリックします。

11 DOSモードでもウイルスバスター95の機能を使用したいときは［はい］を、Windows®95だけで使用するときは［いいえ］をクリックします。

12 セットアップ完了のメッセージが表示されます。［OK］をクリックします。

13 READMEファイルを読むかどうかの質問が表示されます。読むときは［はい］を、読まないときは［いいえ］をクリックします。

14 コンピュータを再起動すると、ウイルスバスター95 Liteの機能が使用できるようになります。今すぐ再起動させる場合は、「はい、コンピュータを再起動します」を選んでから［完了］をクリックします。

これで、再インストールは終わりました。

Appendix

3モードドライバの再インストール

3モードドライバは、NEC PC-9800シリーズなどで使われている1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためものです。(出荷時にはインストールされています。)何らかの原因で機能しなくなったときは、Windowsフォルダにあるドライバを再インストールします。なお、Windows®95も再インストールした場合は、付属のドライバディスクが必要です。

●必要なディスク　ドライバディスク(Windows®95も再インストールした場合のみ)

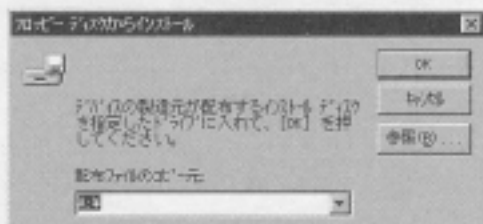
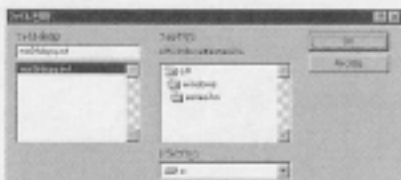
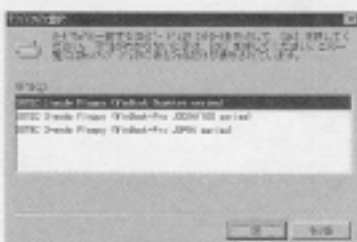
1 [スタート] ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の [システム] アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ] を選びます。

3 [スタンダードフロッピーディスクコントローラ] を選んで、[プロパティ] をクリックします。

4 [ドライバ] を選んで、[ドライバの変更] をクリックします。

5 ［ディスク使用］をクリックします。

6 ［参照］をクリックして、［ファイルを開く］ダイアログボックスを開きます。
Windows®95も再インストールした場合は、フロッピーディスクドライブに付属のドライバディスクをセットし、［OK］をクリックします。（この場合、手順**8**へ）

7 「C：¥Windows¥sotec3m」フォルダを選んで、ファイル名のところで「ms3fdopq.inf」を選び［OK］をクリックします。

8 「SOTEC 3-mode Floppy（WinBook Quattro series）」を選んで、［OK］をクリックします。

これで３モードドライバのインストールが終わりました。

2 索引

さ

し

す

せ

そ

た

て

と

な

に

は

D

E

F

G

H

I

K

L

M

N

P

R

S

T

V

W

数字

製品の仕様

システム仕様

モデル		J4P90CX	J4P120CX
CPU		Pentium 90MHz	Pentium 120MHz
システムRAM	標準	8MB 3.3Vタイプ	16MB
	最大	40MB(16MBRAMカード3.3Vタイプ2枚追加時)	
BIOSROM		128KB　フラッシュROM	
ビデオメモリ		1MB 32ビット幅ローカルバス・アクセラレータ付き	
ハードディスク		810MB脱着式	
フロッピーディスク		3.5インチ3モード 1.44MB/1.2MB/720KB脱着式	
CD-ROMドライブ		12cm/8cm 4倍速	
ビデオ	LCD	800×600ドット TFTカラー64K(65,536)色 0.28ピッチ RGB一組 12.1インチ冷陰極管バックライト ※DOSモード 640×480ドット	
	CRT	最大1024×768ドット カラー256色(ノンインターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能 ※DOSモード 640×480ドット	
インターフェース		シリアルポート(16550AタイプUART互換) パラレルポート(EPP対応) 外部CRTポート 外部キーボードポート PCMCIA V2.1 ICカードスロット(TYPEⅡ×2 TYPEⅢ×1) SPEAKER端子 MIC IN端子 LINE IN端子	
キーボード	仕様	3mmキーストローク メンブレン型	
	キー数	84キー(106キーエミュレーション)	
マウス		キーボード組み込み型グライドポイント2ボタン式	
サウンド		16ビットステレオデジタルサウンドFM音源WINDOWS サウンドシステム互換	
スピーカ		35mm×2 ステレオ	
マイク		モノラルマイク内蔵	
機密保護機能		パスワード設定による保護機能	
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能	ユーザ選択可能
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ5年間	
電源	ACアダプタ	入力100V~240V 50・60ヘルツ	
		出力19V 2.5A	
	電池	リチュームイオン電池 14.4V 2500mA	
寸法		302(W)×230(D)×49(H)mm	
重量		2.9Kg	

システムメモリマップ

FFFFFFFFH FFE00000H	システムBIOS領域
FFDFFFFFH 01600000H	予約領域
027FFFFFH 00800000H	拡張メモリカード増設領域
007FFFFFH 00400000H 003FFFFFH 00100000H	標準実装7MB領域
000FFFFFH 000F8000H	システムBIOS
000F7FFFH 000F0000H	PMプログラム領域
000EFFFFH 000E8000H	PMプログラムデータ領域
000E7FFFH 000E0000H	アッパーメモリ予約エリア
000DFFFFH 000D8000H	アッパーメモリ予約エリア
000D7FFFH 000D0000H	PCMCIA予約エリア
000CFFFFH 000C8000H	PnPBIOS
000C7FFFH 000C0000H	VGA BIOS
0000BFFFFH 0000A0000H	VGAディスプレイメモリ
00009FFFFH 000000000H	メインメモリ640Kバイト

システムI/Oマップ

アドレス	割り当て
03F8H~03FFH	COM1シリアルポート(シリアルポート)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03EFH	予約領域
03E0H~03E1H	ICカードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT3プリンタポート
0380H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1プリンタポート(プリンタポート)
0300H~036FH	予約領域
02F0H~02FFH	PCMCIAのCOM2用として予約
0280H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2プリンタポート
0230H~026FH	予約領域
0220H~022FH	サウンドチップ
0200H~021FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMAコントローラ2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ2
0080H~009FH	DMAページレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック·カレンダ·その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~0053H	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMAコントローラ1

( )内はデフォルト設定の割り当てを示します。